学校番号	3017

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	現代文Ｂ	単位数	2	年次	２年次
校内名称	現代文			ユニット数	1.5	必選別	必
使用教科書	精選現代文B　改訂版（筑摩書房）						
副教材等	新国語便覧（大修館書店）　新成現代文２・錬成現代文２＋（尚文出版）　現代文単語（桐原書店）　大学入試に出た核心漢字２５００＋語彙１０００（尚文出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〈現代文とは〉
　現代文という科目は、様々なものの見方や、近現代とはいかなる時代であるのかを学び、学んだことを基盤として多面的に物事を考える能力を身につけるための科目である。そのためには文章を正確に読み取り、筆者の言わんとしていることを正しくつかむ必要がある。そしてそれを書いたり話したりして、人に間違いなく伝わるように表現しなくてはいけない。様々な文章を読んだり聞いたりする中で、筆者や話者、場合によっては出題者とコミュニケーションをとり、自分の中には存在しなかったものの見方・考え方に触れ、考えを深めて大きくなってもらいたい。

〈漢字・現代文単語の学習について〉
　新たな漢字・新たな言葉を知るということは、新たな概念を得ることである。それは即ち、自らの思考の枠組みを広げ、抽象的思考能力を育む行為なのである。単に漢字・用語を丸暗記するのではなく、きちんとそれらの意味を理解した上で使えるようにして、読解力やコミュニケーション力の向上に役立ててもらいたい。

2　学習の到達目標

　現代を知る上で必要不可欠な、言語論・科学論・芸術論・近代論など様々なジャンルの文章を丁寧に読解し、自分の頭で考え、必要に応じて言語で表現する。漢字・現代文単語の学習にも随時取り組み、一生ものの読解力（聞き取る力も含む）と表現力（書く力・話す力）を身につける。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:話す･聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識･理解
観点の趣旨	言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書くことができる。	文章を的確に読みとり、自分の考えを深め、発展させている。	漢字や現代文単語、現代思想について理解し、知識を身につけている。
評価方法	授業態度、提出物	議論、発表等	提出物、定期考査	定期考査	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
評価点の割合は考査点が９０％程度、平常点が１０％程度。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容　（授業教材）	主な評価の観点					単元(題材)の評価基準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期中間考査まで	評論①、小説①	「アイオワの玉葱」 長田弘 「山月記」 中島敦	○			○	○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 d：高校レベルの文章を読みとることができている。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度、提出物、定期考査
前期期末考査まで	評論②、小説②、詩	「物語るという欲望」 内田樹 「水仙」 太宰治 「永訣の朝」 宮沢賢治	○		○		○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 c：読みとった内容を元に、自らの考えを書くことができる。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度、提出物、定期考査
後期中間考査まで	評論③、小説③	「こころ」 夏目漱石 「ファンタジーワールドの誕生」 今福龍太	○	○			○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 b：自らの解釈を積極的に発表し、議論できている。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度、提出物、定期考査、発表等
後期期末考査まで	評論④、⑤、短歌	「『である』ことと『する』こと」 丸山真男 「身体、この遠きもの」 鷲田清一 短歌	○		○	○	○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 c：読みとった内容を元に、自らの考えを書くことができる。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度、提出物、定期考査

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　　b：話す・聞く能力　　c：書く能力
d：読む能力　　e：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点にのみ○をつけている。

学校番号	3017

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	文系 前期１ 後期２ 理系 前期１ 後期１	年次	2年次
校内名称	古典			ユニット数	前期 2.5 後期 文系3 理系 1.5	必選別	必
使用教科書	改訂版　古典Ｂ　古文編・漢文編（数研出版）						
副教材等	体系古典文法（数研出版）、精選漢文（尚文出版）、力をつける古典ステップ２．５（数研出版）、トータルサポート新国語便覧（大修館書店）、LOOK@古文単語３３７（京都書房）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

古典は偉大な先人達の、歴史の波に揉まれながらも残った素晴らしい言葉であり、現代の我々が読んで未来への糧とするものである。いろいろな感想を持ちつつ様々な価値観を知り、人間について深く考えてほしい。
予習…音読して本文を写し、辞書・文法書・漢文学習書などを使って訳してみる。完全な訳でなくていいので、「どこが分からな　いのか」「何がわかれば訳せるのか」を把握しておく。
授業…集中して授業に参加し、自分の頭で考え、板書していなくても必要なことはノートに書く。
復習…その日のうちに、ノートを見ながら内容を確認し本文を音読する。しばらく経ってからまたノートを見返して、重要事項の確認や音読をする。
　音読や暗唱をすることは、古典のリズムや言語感覚を身体で捉えることに繋がり、読解のための一番の近道となる。また辞書は、言葉の持つそれぞれの歴史や物語を覗くことができ、教養を深めるために大切である。初めは面倒に感じても、音読や辞書を引くことを習慣にしてしまおう。

2　学習の到達目標

【古文】一年ですでに必要な文法事項はほぼ習得している。それらを使ってさらに読解を進め、重要単語をしっかりと覚えていくことによって、初見でも古文を読める力をつけていく。
【漢文】漢文の句形も主なものは学んだので、２年生では残りの句形を学習し、多くの漢文に触れていく。難読漢字が多いことが漢文を難しく感じさせているが、多くの漢文に触れ、読み慣れることによって、徐々に文章の内容を把握できるようになってくる。

観点	a:関心･意欲･態度	d:読む能力	e:知識･理解
観点の趣旨	言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。	文章を的確に読みとり、自分の考えを深め、発展させている。	言語や古典文学について理解し、知識を身につけている。
評価方法	授業態度、提出物	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめる。
評価点の割合は、考査点９０％程度、平常点１０％程度である。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容(授業教材)		主な評価の観点			単元(題材)の評価基準	評価方法
		文理学科 2.5ユニット		a	d	e		
前期中間考査まで	文章読解①	【古文】 十訓抄「大江山」 伊勢物語「渚の院」 方丈記「ゆく河の流れ」 【漢文】 韓非子「買履忘度」　世説新語「華歆・王朗」 説苑「江南橘為江北枳」		○		○	a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ている。 e：文法知識を覚えている。	授業態度、提出物、定期考査
前期期末考査まで	文章読解②	【古文】 大鏡「花山天皇の出家」 枕草子「大納言参り給ひて」 【漢文】 孟子「不忍人之心」 荀子「性悪」 老子「小国寡民」		○	○		a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ている。 ｄ：習得した文法知識、句形を使い文を読むとはどういうことかを理解している。	授業態度、提出物、定期考査、小テスト
		文理学科文科 3ユニット	文理学科理科 1.5ユニット					
後期中間考査まで	文章読解③	【古文】 源氏物語 「光源氏の誕生」 更級日記 「東路の道の果て」 「物語」 【漢文】 史記 「鴻門之会」	【古文】 源氏物語 「光源氏の誕生」 【漢文】 史記 「鴻門之会」	○		○	a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ている。 e：文法知識を覚えている。	授業態度、提出物、定期考査、小テスト
後期期末考査まで	文章読解④	【古文】 源氏物語 「小柴垣のもと」 【漢文】 史記 「四面楚歌」 「項王自刎」	【古文】 源氏物語 「小柴垣のもと」 【漢文】 史記 「四面楚歌」	○		○	a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ている。 e：文法知識を覚えている。	**授業態度、提出物、定期考査、小テスト**

※　表中の観点について　　a ：関心・意欲・態度　　d ：読む能力　　e ：知識・理解

※原則として一つの単元（題材）に取り組む毎に全ての観点で評価するが、それぞれでとりわけ重点的に評価を行う観点に○をつけている。なお、上記以外で試験範囲を追加する場合がある。

学校番号	３０１７

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	２年前期
校内名称	世界史Ａ			ユニット数	２年前期 1.5	必選別	必修
使用教科書	「要説世界史」　（山川出版社）						
副教材等	最新世界史図説　タペストリー　（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「世界史を学ぶ」ということは、いろいろなところに「とっかかり」を持つことでもある。本を読んでも、音楽を聴いても、テレビを見ても、あるいは美術館に行っても、世界史を知っているかどうかで、そのおもしろさは大きくかわってくる。様々なことに興味が湧き、人間としての幅を広げることにもつながる。また、現在、世界で起こっている出来事に対する理解も深まるはずである。歴史科目はどうしても「暗記」だと思いがちだが、名前だけを覚えても意味はないし、第一、おもしろくない。歴史を流れとして捉え、起こった出来事の背景や原因、影響などを考えながら授業を受けてほしい。歴史に関する本を読むことも、世界史への理解を深めるのに役立つ。小説でも世界史関連の本がたくさんあるので、まずは読みやすいものから始めてみるのもよいだろう。

２　学習の到達目標

1 年後期の世界史では、主に中国の漢までと古代オリエント・ギリシアの歴史を学んだ。2 年前期では、古代ローマとイスラーム世界、続いて古代の南・東南アジアの歴史を学ぶ。これらを通して、キリスト教、イスラーム、仏教が成立した背景や特質について学び、現在の世界でも多くの信者を持つだけでなく、それが広まった地域の人々の思考に与えた影響を考察する。
また、古代からそれらの地域が互いに交流を持ち、日本もその中に含まれていることを確認するとともに、交流の中で諸地域が多様で複合的な文化を生み出していったことを理解する。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学習に取り組んでいる。	現在の世界で起こっている問題を、歴史的な観点から考察し、公正に判断して、それを適切に表現する。	世界の歴史に関する様々な資料から、必要な情報を選択し、活用する。	世界の歴史についての基本的な知識を身につけ、地理的な条件や日本の歴史と関連付けて理解する。
評価方法	授業態度(積極的に参加しているかなど) 「世界史 興味・関心 Sheet」の提出	授業態度(質問に対する答えなど) 定期考査 「世界史 興味・関心 Sheet」の提出	「世界史 興味・関心 Sheet」の提出 定期考査	授業での発言 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点９５％程度、平常点５％程度です。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
2年 前期中間考査まで	古代地中海・イスラーム世界	○古代地中海世界 ・ローマ世界 ・ローマ文化とキリスト教 ○南アジア世界 ・インダス文明とアーリヤ人 ・新宗教の成立 ・マウリヤ朝 ・クシャーナ朝 ・グプタ朝	○			○	a: 授業で積極的に発言し、ノートを写す際も、自分なりに工夫する。 d: 基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 定期考査
2年 前期期末考査まで	中世ヨーロッパ世界	○東南アジア世界 ・港市国家成立まで ・イスラーム化の進展 ○イスラーム世界の形成 ・イスラームの成立 ・ウマイヤ朝から 　アッバース朝 ・イスラーム諸王朝の分裂 ・イスラーム文化		○	○	○	b：学んだ知識を現在の世界と結びつけて考察する。 c：「興味・関心 Sheet」で、資料を活用し、かつ、自分の考えや判断を表現する。 d：基本的な用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 世界史「興味・関心sheet」 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○を付けている。

学校番号	３０１７

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	(学)世界史探究	単位数	１単位	年次	２年後期
校内名称	世界史探究			ユニット数	2年後期2.5	必選別	選択
使用教科書	「世界史Ｂ」　（実教出版）						
副教材等	最新世界史図説　タペストリー　（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界史は「暗記科目」とばかり思いがちであるが、そうなると世界史学習は苦しいだけになってしまう。TV 番組や映画を見ていても、新聞や本を読んでも、あるいは音楽を聴いたり、劇場や美術館に行ったりしても、世界史を知っていると理解が深まることが多い。するといろいろなことに興味が湧いて、自分の人間としての幅を広げることにもなる。世界史の学習を通じて、将来、「国際人」として活躍する際に必要な素養を養ってほしい。
様々な国の、様々な時代の人々やできごとに興味・関心を持ち、あるいは疑問を持とう。実際の入試の場では、単語を覚えているだけでは正解を導けない問題も多く、「なぜ」「だから」ということを考えて楽しく学習することが、実は得点にもつながる。

2　学習の到達目標

1年後期～2年前期で学んだことをふまえ、2年後期では、中世ヨーロッパから始める。前半は周りからの攻撃に対して守勢であった西欧世界が、農業生産力の向上や人口増加に伴って外へと拡大し始める。その延長線上にあるヨーロッパ人の海外進出によって、諸地域世界の交流がユーラシア規模から地球規模へと拡大していくことを学ぶ。一方、このころアジアにはヨーロッパを脅かすほど大きな力を持った大帝国が存在していたことも確認する。最後に産業革命以降のヨーロッパがどのような変化を遂げ始めるかを学ぶ。これらの学習を通じて、グローバルな視点を持って、各地域間の国際関係の変化について考察する。また、日本について客観的にみる目を養い、現在起こっている国際的諸問題に対する理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学習に取り組んでいる。	現在の世界で起こっている問題を、歴史的な観点から考察し、公正に判断して、それを適切に表現する。	世界の歴史に関する様々な資料から、必要な情報を選択し、活用する。	世界の歴史についての基本的な知識を身につけ、地理的な条件や日本の歴史と関連付けて理解する。
評価方法	授業態度(積極的に参加しているかなど) 「世界史 興味・関心 Sheet」の提出	授業態度(質問に対する答えなど) 定期考査 「世界史 興味・関心 Sheet」の提出	「世界史 興味・関心 Sheet」の提出 定期考査	授業での発言 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点９５％程度、平常点５％程度です。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr>
<tr><td rowspan="2">2年　後期中間考査まで</td><td>中世ヨーロッパ世界</td><td>〇ヨーロッパ世界の
形成と展開
・ﾗﾃﾝ=ｶﾄﾘｯｸ圏の形成と展開
・ﾋﾞｻﾞﾝﾂ帝国とｷﾞﾘｼｱ正教圏
・ラテン=カトリック圏の拡大
・ラテン=カトリック圏の
動揺と秩序の変容
・キリスト教世界のなかの文化</td><td rowspan="2">〇</td><td rowspan="2">〇</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">〇</td><td rowspan="2">a：受身ではなく、積極的な態度で授業に臨み、すすんで発言する。ノートをとる際に、ただ板書をそのまま写すのではなく、自分なりに工夫している。
b：これまで地域ごとに学んできたことを総合し、ユーラシア大陸全体の歴史として総合的に捉える。
d：基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。</td><td rowspan="2">授業態度
定期考査</td></tr>
<tr><td>近世ヨーロッパ世界</td><td>〇近世ヨーロッパと
大航海時代
・ヨーロッパの海外進出
・ルネサンスと宗教改革
・主権国家体制の成立
・激化する覇権競争
・近世ヨーロッパの社会と文化</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2年　後期期末考査まで</td><td>アジア諸地域の繁栄</td><td>〇アジア諸地域の帝国と
第2次大交易時代
・中央ユーラシア世界と
西アジア世界の帝国
・南アジア世界の帝国
・東南アジア諸国と
第2次大交易時代
・東アジア世界の帝国
・14～18世紀の
朝鮮半島と日本</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">〇</td><td rowspan="2">〇</td><td rowspan="2">〇</td><td rowspan="2">b：質問に対する答えを含め、自分の考えをグローバルな視点に立って、わかりやすく表現できる。
c：資料集や授業内容を活用して自分の考えや判断を表現する。また、「世界史 興味・関心 Sheet」作成に当たって、自ら資料を探し、それを統合して表現する。
d：基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。</td><td rowspan="2">授業態度
「世界史興味・関心Sheet」
定期考査</td></tr>
<tr><td>近代欧米の成立</td><td>〇環大西洋革命と
パクス＝ブリタニカ
・イギリスの産業革命
・アメリカ独立革命</td></tr>
</table>

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点について〇を付けている。

令和２年度　地理歴史科　日本史Ａ

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年前期
校内名称	日本史Ａ			ユニット数	3.0	必選別	選択必修
使用教科書	「日本史Ａ」（清水書院）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は、現代に生きる人間がその問題意識を「過去」に問いかけていくものである。したがって学習においては、「疑問の心」や「好奇心」を持つことが大切である。そこで、できるだけたくさんの本を読んだり、発掘・発見などの報道に接したり、展覧会や史跡見学をするなど、興味や関心の幅を広げてほしい。そして、歴史を学ぶなかで、視野の広い、奥行きのある思考力と社会観を培ってもらいたい。
日々の学習では、授業を大切にしよう。ただし授業中にプリントを完成するだけでは力はつかない。まず、しっかりと教師の話を聞くこと。正確に書き残すことは大切だが、教師が話しているときに、済んだところの板書を写すのでは頭に残らない。教師の話を聞いて大切と思ったことは、アンダーラインを引いたり、欄外に書き留めたりしておこう。配布されたプリントは必ずノートに貼るか、ファイリングすること。授業はプリントを中心に教科書・史料集・図表を使って展開されるので、指示があるところを、日々の授業の「その場で」丁寧に確認しよう。毎日の学習事項を時代の流れの中に位置づけることが大切なので、折にふれ、教科書の以前の関連ページを読み直し、ストーリーとしてつかまえておくことが必要である。

２　学習の到達目標

日本の近現代の歴史の展開を世界史的視野に立って、政治、経済、社会、文化などの歴史を構成する要素を総合した幅広い見方で把握し、日本の文化や伝統の特色についての認識を深めるとともに、歴史的思考力、国際社会に生きる資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の近現代の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学習に取り組んでいる。	日本の近現代の歴史における課題やそれと現在の国内外の諸課題との関連性について多面的･多角的に考察し、公正に判断し、それを適切に表現している。	文字史料や図表などの歴史資料を読み取り、事象の背景や関連性を読み取っている。	日本の近現代の歴史についての基本的な知識を身につけ、国際環境や地理的条件と関連付けて理解している。
評価方法	授業態度(積極的に参加しているかなど)	授業態度(質問に対する答えなど) 定期考査	授業態度(史料や図表を読み取っているか) 定期考査	授業での発言 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめる。
評価点の割合は、考査点９５％程度、平常点５％程度。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
2年　前期中間考査まで	近代	○近代の日本と世界 ・国際環境の変化と幕藩体制の動揺 ・明治維新と近代国家の形成 ・立憲政体の成立と国際的地位の向上 ○大戦期の世界と日本 ・第一次世界大戦と日本	 ○ ○ ○ ○	 ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	a：受身ではなく、積極的な態度で授業に臨み、すすんで発言する。ノートをとる際に、ただ板書をそのまま写すのではなく、自分なりに工夫している。 b：明治維新から第一次世界大戦へ至る過程から課題を見出し、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、適切に表現している。 c：事象の内容や背景を、歴史資料から読み取っている。 d：基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 定期考査
2年　前期期末考査まで	近代／現代	○大戦期の世界と日本 ・第二次世界大戦と日本 ○現代の世界と日本 ・戦後政治の動向と国際社会 ・経済の発展と国民生活の変化 ・現代の日本と世界	 ○ ○ ○ ○	 ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	a：受身ではなく、積極的な態度で授業に臨み、すすんで発言する。ノートをとる際に、ただ板書をそのまま写すのではなく、自分なりに工夫している。 b：第二次世界大戦から現在へ至る過程から課題を見出し、また現在の国内外の諸課題との関連性について多面的・多角的に考察し、公正に判断し、適切に表現している。 c：事象の内容や背景を、歴史資料から読み取っている。 d：基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○を付けている。

令和２年度　地理歴史科　日本史－近世までの潮流－

教科	地理歴史	科目	(学)日本史 －近世までの潮流－	単位数	１単位	年次	２年後期
校内名称	日本史		ユニット数	２．５		必選別	選択必修
使用教科書	「日本史Ｂ」（実教出版）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）・詳録新日本史史料集成(第一学習社)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史を学ぶということは、過去を知るということである。しかし、それはただ単に知るだけでは意味がない。当時の人がなぜそのように行動したのか、なぜそのような組織や制度をつくったのか、歴史的な背景・関連を知ることが大切である。現代の価値観をもって過去のできごとを裁断するのではなく、当時の合理性を把握するのである。そうした見方を持つことは、私たちが「今」を客観的に見ることにつながる。歴史学習において、「疑問の心」や「好奇心」を持つことは非常に大切である。疑問や好奇心を持ったなら、関連する本を読んだり、博物館や史跡の見学をしてほしい。

日々の授業においても疑問の心や好奇心を忘れずにいてほしい。授業中にプリントを完成させるだけでは、ほんとうの学びにはつながらない。まず、しっかりと教師の話を聞く。教師の話を聞いて、大切と感じたり、疑問に思ったことは、アンダーラインを引いたり、欄外に書き留めておこう。疑問に思ったことは質問しよう。毎日の学習事項を時代の流れの中に位置づけることが大切なので、折にふれ、教科書や資料集の関連ページを読み直しストーリーとして把握しよう。そうすることで、また疑問の心や好奇心がわきおこり、歴史学習のモチベーションが高まるであろう。

2　学習の到達目標

日本の原始から古代までの歴史の展開を世界史的視野に立って、政治、経済、社会、文化などの歴史を構成する要素を総合した幅広い見方で把握し、日本の文化や伝統の特色についての認識を深めるとともに、歴史的思考力、国際社会に生きる資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の原始から近世までの歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学習に取り組んでいる。	日本の原始から近世までの歴史における課題やそれと現在の国内外の諸課題との関連性について多面的・多角的に考察し、公正に判断し、それを適切に表現している。	文字史料や図表などの歴史資料を読み取り、事象の背景や関連性を読み取っている。	日本の原始から近世までの歴史についての基本的な知識を身につけ、国際環境や地理的条件と関連付けて理解している。
評価方法	授業態度(積極的に参加しているかなど)	授業態度(質問に対する答えなど) 定期考査	授業態度(史料や図表を読み取っているか) 定期考査	授業での発言 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめる。
評価点の割合は、考査点９５％程度、平常点５％程度。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
2年 後期中間考査まで	原始・古代	○日本文化のあけぼの					a：受身ではなく、積極的な態度で授業に臨み、すすんで発言する。ノートをとる際に、ただ板書をそのまま写すのではなく、自分なりに工夫している。 b：原始社会から古代国家の形成の過程から課題を見出し、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、適切に表現している。 c：事象の内容や背景を、歴史資料から読み取っている。 d：基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 定期考査
		・日本最古の文化	○		○	○		
		・縄文時代の社会と文化	○		○	○		
		○水稲農業の開始と社会生活の進展						
		・弥生時代の社会と文化	○		○	○		
		・小国の分立と邪馬台国	○		○	○		
		・ヤマト政権の成立・発展と東アジア	○	○	○	○		
		・古墳の成立と発展	○		○	○		
		・大陸文化の摂取	○		○	○		
2年 後期期末考査まで	原始・古代	○東アジア文化の影響と律令制度の成立					a：受身ではなく、積極的な態度で授業に臨み、すすんで発言する。ノートをとる際に、ただ板書をそのまま写すのではなく、自分なりに工夫している。 b：古代国家の形成やその発展過程から課題を見出し、また現在の国内外の諸課題との関連性について多面的・多角的に考察し、公正に判断し、適切に表現している。 c：事象の内容や背景を、歴史資料から読み取っている。 d：基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 定期考査
		・推古朝の政治と飛鳥文化	○		○	○		
		・律令国家成立期の政治と文化	○	○	○	○		
		・律令体制とその実態	○		○	○		
		・天平文化	○		○	○		
		○摂関政治と国風文化						
		・平安初期の政治と文化	○		○	○		
		・摂関政治と地方の動向	○		○	○		
		・国風文化	○		○	○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理Ａ	単位数	２単位	年次	２年次前期
校内名称	地理Ａ			ユニット数	３	必選別	選択必修
使用教科書	「高等学校　新版地理Ａ　世界に目を向け、地域に学ぶ」（帝国書院） 「新詳高等地図」（帝国書院）						
副教材等	「新詳地理資料　COMPLETE　2020」（帝国書院）「新地理要点ノート」（啓隆社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

地理を一言で言うと、「地表空間における特定地域の自然、人文の諸事情を総合的に把握し、地域的特色を明らかにしようとする学問」です。

もう少し簡単に言うと「広い地球上で、なぜ、そこにあるのか？なぜ、そこで起きているのか？」を考える学問です。「地理は暗記もの」と思っている人も多いと思いますが、実は、「ものごとが起きるしくみ」を学ぶ教科です。もちろん、対象は地表なので、地図を使うことは必須です。地図で確認しながら自分の頭の中に自分だけのマップを作ってみましょう。

２　学習の到達目標

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけている。
評価方法	授業態度 （積極的な参加、地図帳の活用度など） 映像・文献に関する感想文・レポートの提出	授業態度 （質問に対する答えなど） 定期考査 映像・文献に関する感想文・レポートの内容	授業態度 （地図帳の活用度など） 定期考査	授業態度 （授業での発言など） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点９０％程度、平常点１０％程度です。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr>
<tr><td rowspan="2">前期中間考査まで</td><td rowspan="2">現代世界の特色と諸課題の地理的考察</td><td>■地球儀や地図からとらえる現代世界
■世界の人々の生活を取り巻く地理的環境</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">a：現代世界の諸地域に見られる地域的特色や諸課題をもとに、現代世界の諸地域に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し捉えようとしている。
b：現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえた地域の変容や構造、地域的特色や地球的課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
c：現代世界の諸地域に関する諸資料の取捨選択を適切に行い、特徴を読み取ったり図表にまとめたりする地理的技能を身につけている。
d：現代世界に見られる地域的特色や諸課題について地理的に考察する方法を理解し、その知識を身につけている。</td><td rowspan="2">授業態度
感想文
レポート
定期考査</td></tr>
<tr><td rowspan="2">前期期末考査まで</td><td>■世界の諸地域の生活・文化と環境
■私たちが直面する地球的課題</td></tr>
<tr><td>生活圏の諸課題の地理的考察</td><td>■日常世界と結びついた地図
■自然環境と防災
■生活圏の地理的な諸課題と地域調査</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>a：生活圏の諸地域に見られる防災などの諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し捉えようとしている。
b：生活圏の諸課題に対する関心と課題意識を地理的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
c：生活圏の地理的な諸課題に関する諸資料の取捨選択を適切に行い、特徴を読み取ったり図表にまとめたりする地理的技能を身につけている。
d：生活圏の地理的な諸課題について考察する方法を理解し、その知識を身につけている。</td><td>授業態度
感想文
レポート
定期考査</td></tr>
</table>

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理Ｂ	単位数	１単位	年次	２年次後期
校内名称	地理Ｂ			ユニット数	２．５	必選別	選択必修
使用教科書	「新詳地理Ｂ」（帝国書院）「新詳高等地図」（帝国書院）						
副教材等	「新詳地理資料　COMPLETE　2020」（帝国書院）「新地理要点ノート」（啓隆社） 「ﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ ｵﾌﾞ ｻﾞ ﾜｰﾙﾄﾞ 2020」（二宮書店）「地理の整理と演習」（とうほう）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

地理を一言で言うと、「地表空間における特定地域の自然、人文の諸事情を総合的に把握し、地域的特色を明らかにしようとする学問」です。

もう少し簡単に言うと「広い地球上で、なぜ、そこにあるのか？なぜ、そこで起きているのか？」を考える学問です。「地理は暗記もの」と思っている人も多いと思いますが、実は、「ものごとが起きるしくみ」を学ぶ教科です。

もちろん、対象は地表なので、地図を使うことは必須です。地図で確認しながら自分の頭の中に自分だけのマップを作ってみましょう。

２　学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけている。
評価方法	授業態度 （積極的な授業参加、地図帳の活用度など） 映像・文献に関する感想文・レポートの提出	授業態度 （質問に対する答えなど） 定期考査 映像・文献に関する感想文・レポートの内容	授業態度 （地図帳・統計の活用など） 定期考査	授業態度 （授業での発言内容など） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点９０％程度、平常点１０％程度です。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr>
<tr><td rowspan="3">後期中間考査まで</td><td>様々な地図と地理的技能</td><td>■様々な地図と地理的技能
■地域調査</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>a：地球儀や諸地図の活用、地域調査などの活動を通して、単元に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、捉えようとしている。
b：地球儀や諸地図の活用、地域調査などの活動を通して、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
c：地球儀や諸地図の活用、地域調査などの活動を通して、諸資料の取捨選択を適切に行い、特徴を読み取ったり図表にまとめたりする地理的技能を身につけている。
d：地球儀や諸地図の活用、地域調査などの活動を通して、現代世界の地理的事象を捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。</td><td>授業態度
感想文
レポート
定期考査</td></tr>
<tr><td rowspan="2">現代世界の系統地理的考察</td><td>■自然環境
○地形環境
○気候環境</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td rowspan="2">○</td><td>a：自然環境に関する諸事象の分布や人間生活とのかかわりなどについての考察をもとに、単元に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、捉えようとしている。
b：自然環境に関する諸事象の分布や人間生活とのかかわりなどについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
c：自然環境に関する諸事象の分布や人間生活とのかかわりなどについて、諸資料の取捨選択を適切に行い、特徴を読み取ったり図表にまとめたりしている。
d：自然環境に関する諸事象の分布や人間生活とのかかわりなどについて、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。</td><td rowspan="2">授業態度
感想文
定期考査</td></tr>
<tr><td>■資源と産業
○農林水産業</td><td rowspan="2">a：資源と産業に関する諸事象の分布や動向などに関する考察をもとに単元に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、捉えようとしている。
b：資源と産業について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
c：資源と産業に関する諸資料の取捨選択を適切に行い、特徴を読み取ったり図表にまとめたりしている。
d：資源と産業について系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。</td></tr>
<tr><td>後期期末考査まで</td><td>■資源と産業
○資源･エネルギー
○工業
○流通と消費</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	１単位	年次	２年次（後期）
校内名称	倫理（文系）・倫理政経（理系）			ユニット数	1.5	必選別	選
使用教科書	高等学校　改訂版　倫理　（第一学習社）						
副教材等	最新倫理資料集　（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

まず、考えること。考えることに人間の本質がある、といわれる。ただ単に考えるのではなく、何が問題であり、その問いを解決するためにはどうしなければならないか、先行する思想家はどのように考えたのか、様々な問いを論理的整合性を持って解決しようと心がけてください。
暗記科目と考えて記憶に精を出すのではなく、様々な問いに疑問を持つようにしてください。自ら考えようとする姿勢が、後になると理解につながります。
授業で板書を写し、評価をもらうことが勉強の目的ではありません。何が重要なのかを見いだし、自分が「理解するために」ノートを作り、自分だけの参考書を作ることが勉強であり、それが結果としてセンター試験でも生きてきます。
たくさん本を読みましょう。新聞も読みましょう。いろんな方法で「感性」を磨いてください。

2　学習の到達目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としてのあり方・生き方についての理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある人間として必要な能力と態度とを育む。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:資料活用の技能	d:知識･理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と生命に対す畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、これらに関わる先哲の思想を探究し、人間としてのあり方、生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、時代背景や先哲の思想を参考にしながら、多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	先哲の著作や、様々な諸資料を読み、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関わる先哲の思想などを、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。
評価方法	ワークシート （ノート･プリントの内容を含む(以下同)） レポート 授業の参加態度	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 ワークシート レポート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点９０％程度、平常点１０％程度です。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
後期中間考査まで	人間としての自覚	ギリシャの思想 キリスト教・イスラーム・仏教 中国の思想	○			○	a. 「哲学的な思考法」や「宗教的な思考法」に関心を持ち、「善さ」や「正しさ」とは何かについて探究しようとしている。 d. 仁や礼などから人間についての見方や望ましい人間関係による社会生活のあり方などを理解し、人格の形成に生かす知識として身につけている。	ワークシート 定期考査
後期期末考査まで	国際社会に生きる日本人としての自覚	日本の風土と伝統 外来思想の受容	○	○	○	○	a. 日本の伝統的な価値観について関心を持ち、それらを手がかりに日本の思想の展開について探究しようとしている。 b. 仏教思想間、朱子学と古学など、様々な思想を、時代背景も踏まえて比較しながら考察している。 c. 先人の思想に関わる資料から、その思想の特徴を読み取っている。 d. 仏教や儒学、とりわけ朱子学がどのように日本人の意識や価値観に影響を与えたかを理解し、次の「庶民の思想」を理解するためにも用いている。	ワークシート 定期考査
		町人意識の目覚めと庶民思想	○	○		○	a. 江戸時代や明治時代という時代を踏まえ、思想の多様性に関心を持ってそれらの思想を探究しようとしている。 b. 町人の思想や国学が提唱する人間性を尊重する生き方について、儒学などとの関わりも踏まえて多面的に考察している。 d. 石田梅岩の心学が企業の社会的責任に通じる思想であることなど、取り上げる思想はいずれも現代の社会に通じる思想であることを理解し、自分の生き方に関わる知識として身についている。	ワークシート 定期考査 レポート
＊「西洋思想との出会い」「現代に生きる人間の倫理」「現代の諸課題と倫理」の単元は３年次に学習します。								

※　表中の観点について　　a ：関心・意欲・態度　　b ：思考・判断・表現
c ：技能　　d ：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　公民科

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	１単位	年次	２年次（後期）
校内名称	政治経済（文系）・倫理政経（理系）			ユニット数	文系：1.5 理系：1.5	必選別	選
使用教科書	改訂版　政治・経済（数研出版）						
副教材等	政治・経済整理ノート(数研出版)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年の現代社会の学習を踏まえて、２年の「政治経済」では政治分野を中心に学習します。選挙権年齢が18歳になった現在では、「私は、政治には興味がない」というような態度はもはや許されません。国や地方公共団体における政治だけでなく、学校を含めて社会のあらゆる場面でいわゆる「政治的な活動」は行われています。政治と経済のいずれにも共通することですが、現実の社会に興味・関心を持って、社会の中で積極的に行動することが重要です。

単にノートの空欄を補充してテストを受けるだけなら、教科書を読めば十分です。授業中のさまざまな話の中から、実際に社会人なってから求められるような良識や感性を身につけるようにしてください。そのためには、学校の授業だけではなく、普段の生活で新聞やテレビのニュース、インターネットなどからどれだけ多くの情報を得て、当事者意識を持って考えているのかがポイントになります。

もちろん、来年の大学入学共通テストで高得点をとることも目的の一つにはなりますが、どのような進路に進んでも、政治と経済には一生接していくことになります。そのつもりで学習してください。

2　学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としてのあり方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:資料活用の技能	d:知識･理解
観点の趣旨	現代の政治に対する興味・関心を高め、自ら意欲的にさまざまな政治的な問題について考察する。 国家･社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進に向けて努力する態度を身につける。	現代の政治に関わる事柄から課題を見いだし、その本質や特質、望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的･多角的に考察する。 社会の変化やさまざまな立場、考え方を踏まえて公正に判断できるように、その過程や結果について自分なりの方法で適切に表現している。	現代の政治に関わる諸資料をさまざまなメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治に関する基本的な事項や本質、特質および動向を捉える基本的な概念などの知識を身につける。 現実に行われている政治のしくみを理解し、その問題点を把握する。
評価方法	ワークシート (ノート･プリントの内容を含む(以下同)) レポート 授業の参加態度	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 ワークシート レポート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価して、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点が95％程度で、平常点は５％程度です。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
政経 選択・倫政 後期中間考査まで	基本原理・日本国憲法・人権	民主政治の基本原理 ・政治と法 ・民主政治のあゆみ ・民主政治の基本原理とその展開 ・政治体制の比較	○			○	a. 世界各国で行われている民主政治に対する興味・関心を高める。 d. 民主政治の歴史的なあゆみについての知識を整理して、民主政治の基本原理を理解する。 各国の政治制度の違いを理解する。	ワークシート 定期考査
		日本国憲法と基本的人権 ・日本国憲法の基本的性格 ・基本的人権の保障 ・日本国憲法の平和主義	○	○		○	a. 日本国憲法については、できるだけ身近な事例と関連付けて、条文の文言に興味・関心をもつ。 b. 将来の国民投票を意識して、憲法改正問題について考察する。 d. 平和主義の変遷を理解する。	
後期期末考査まで	政治機構・政治への参加	日本の政治機構 ・国会のしくみと役割 ・内閣と行政機構 ・裁判所のしくみと人権保障 ・地方自治のしくみと住民生活	○		○	○	a. 「地方自治は民主主義の学校」を実践し地方自治にも目を向ける。 c. 地元の地方自治の情報を調べる d. 国会・内閣・裁判所の抑制と均衡のしくみを理解する。	ワークシート 定期考査 (※1月実施の実力テストについてはあくまでも参考程度とする)
		政治参加と民主政治の課題 ・戦後政治と政党 ・選挙制度のしくみ ・世論と情報化社会 ・18歳選挙権の意義と責任	○		○	○	a. 主権者になることを踏まえ、関心を高めて政治参加の準備をする。 c. 政治情勢に関する情報に接し、メディア・リテラシーを高める。 d. 戦後政治と政党の知識から、現代の選挙制度のしくみを理解する	

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
c：技能　　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　保健体育科

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2単位	年次	2年次
校内名称	体育			ユニット数	1.5	必選別	必
教科	保健体育	科目	[学]スポーツサイエンス	単位数	1単位	年次	2年次後期
校内名称	文科選択体育（ライフスポーツ）			ユニット数	1.5	必選別	選
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)						
副教材等	Active Sports(大修館書店)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会的に健康に関心が高まる一方、体を動かしたり、スポーツをする機会は減少し、二極化しているのが現状である。しかし、一生涯使い続ける体を鍛え、育てる時期は今しかない。この時期にこそ正しい体の動かし方や鍛え方、整え方を身に付け、様々な体力を養っていくことが必要である。また、授業を通して仲間とのコミュニケーション力や共に協力して課題を解決していく力を身に付けることも重要である。更に、より分析的に運動を捉えることで、今まで出来なかった事が出来るようになったり、各種目の本質的な楽しさに触れることで豊かなスポーツライフを築くことが出来るのである。

2　学習の到達目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。体つくり運動については引き続き重点的に取り組む中で、１年次以上に筋力向上を目指していく。また、技能的には１年次に習得した個人的技能を基に集団的技能の獲得を目指すと共に、各人がリーダーシップを発揮することが出来るようになることを目標とする。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断	c:運動の技能	d:知識･理解
観点の趣旨	受身の授業ではなく、常に積極的に授業に取り組む事が大切である。出来る出来ないではなく、いかに前向きに取り組むかということである。また、授業に取り組む中で、周囲の仲間の力量や身体の特性を判断していく事も集団で活動する上では重要である。仲間と協力して、安全にかつ各種目の特性に触れ、運動の楽しさ味わう。 公正・協力・責任・参画などの態度を身に付ける。	知識を活用し、技能の向上につなげる。自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組みを工夫できる。 運動を継続したり、体力や技能向上のための計画を考えることができる。 学習で得た成果を自ら応用･発展させ、生涯にわたって、運動に親しむことができる。	記録や技能向上に挑戦する。運動の合理的な実践を通して、種目特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現するための各領域の運動特性に応じた段階的な技能を身に付ける。 仲間と協力して各種目を楽しむ。	運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康･安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解する。 スポーツの歴史、文化的特性、スポーツとの関わり方について理解する。
評価方法	・出席 ・受講態度 ・レポート 等	・レポート ・体育理論のテスト 等	・技能観察 ・技術テスト ・レポート 等	・レポート ・体育理論のテスト ・技能観察 等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、関心・意欲・態度50％程度、思考・判断・技能・知識50％程度。

4　学習の活動

（1）体育

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
前期中間考査まで	体つくり運動　陸上　柔道　器械運動	・新体力テスト A. 陸上競技3種 (ハードル走、三段跳、砲丸投) B. 柔道 C. 器械運動(マット中心) 上記3種目から1種目を選択 ※A,B,Cとも体つくり運動を含む	○ ○	 ○	○ ○	○	a：集団行動や周囲と協力して課題に取り組むことができる。武道の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重することができる。また自己や他者の身体の特性を理解し、安全に運動を行っている。 b：自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。 c：各種目の特性に応じた技能や表現方法を身に付けけている。1年次に習得した技能をさらに習熟させ、新しい技能にも挑戦し、獲得を目指している。 d：技術や技の名称、練習・補助方法、表現の仕方などを理解している。	受講態度の観察 レポート 技能観察
前期期末考査まで	水泳　体育理論	・水泳 （クロール、平泳ぎ、背泳ぎ） ・体育理論 スポーツの技術と戦術 技能の上達過程と練習	○ ○	○ ○	○	 ○	a：水泳の楽しさや喜びを味わうために、マナーやルールを大切にし、水泳の事故防止に留意し、積極的に自己の泳力向上に取り組んでいる。 b：生涯にわたって水泳に親しむため、課題に応じた取り組みを自ら考え実践している。 c：各泳法の特性を理解し、効率的な泳法を身に付けている。 d：技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	受講態度の観察 レポート 技能観察
後期中間考査まで	球技　ネット型　ゴール型	A. バスケットボール B. ハンドボール C. サッカー 上記3種目から1種目を選択	○	○	○		a：各種目の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手やルールを大切にする。グループでの構成や、チームの作戦などの話し合いに積極的に参加している。 b：生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 c：各種目の特性に応じた技能や技術を身に付けている。また、身に付けた技能を発表や、試合で生かしている。 d：技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	受講態度の観察 レポート 技能観察
後期期末考査まで	陸上競技　選択スポーツ	・陸上競技(長距離走) ・選択スポーツ ・体育理論 技能と体力 体力トレーニング	○ ○	○ ○		 ○	a：長距離走の楽しさや、記録が向上する喜びを味わうことができるよう、健康や安全を確保して、主体的に取り組んでいる。 b：生涯にわたって運動に親しむための、自己の課題を理解している。自分たちで運動を計画し、公正・安全に実施する工夫や協力することができる。 c：各種目の特性に応じた技能を身に付け、記録向上に挑戦している。 d：技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	受講態度の観察 レポート 技能観察

（2）文科選択体育（ライフスポーツ）

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間考査まで		体つくり運動 アルティメット その他	○ ○	○	 ○	 ○	a: 協力し合いながら主体的に取り組んでいる。また、フェアプレイを大切にしている。 b: 自己の技能・体力に応じたプレーを選択している。仲間と課題について話し合っている。 c: 状況に応じたディスク操作や仲間との連携した動きから攻防を展開している。 d: 技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	授業観察 技術テスト レポート
後期期末考査まで		体つくり運動 スリータッチボール その他	○ ○	○ ○	 ○		a: 協力し合いながら主体的に取り組んでいる。また、フェアプレイを大切にしている。 b: 自己の技能・体力に応じたプレーを選択している。仲間と課題について話し合っている。 c: 状況に応じたラケット操作や仲間との連携した動きから攻防を展開している。 d: 技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	授業観察 技術テスト レポート

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　b：思考・判断　c：運動の技能　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　保健体育科

教科	保健体育	科目	保健	単位数	１単位	年次	２年次前期
校内名称	保健			ユニット数	1	必選別	必修
使用教科書	現代高等保健体育　（大修館）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・青年期に必要な「現代社会」「人の生涯」という観点から、課題を探し、現状を把握しながら問題を解決していこうとすることで、自らの成長や日々の暮らしに役立てて欲しいと思います。
・知識の習得のみにとどまらず、課題を解決していく方法を、地域や社会の中から探す力を育成するために、ホームページ・新聞などから「健康に生きる」ための情報を収集し、議論できる姿勢を持ってください。
・授業は教科書中心に進めるが、板書をノートに書き写すだけでなく、自分なりに工夫してまとめましょう。

2　学習の到達目標

①個人及び社会生活における健康・安全について理解する。
②健康問題の解決方法を身につける。
③生涯にわたる健康の保持増進の基礎を身につける。
④健康の保持増進のための実践力を身につける。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断	c:知識･理解
観点の趣旨	・生涯の各段階における健康課題への自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用が重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・社会生活における健康の保持増進には、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康に関する活動や対策が重要であることに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・生涯の各段階における健康課題、及び社会生活における健康の保持増進に関わる課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。	・生涯の各段階における健康課題の解決に役立つ自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用のための基礎的な事項を理解している。 ・社会生活における健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康に関する活動や対策についての基礎的な事項を理解している。
評価方法	・観察 ・レポート ・小テスト ・ノート ・定期考査	・観察 ・レポート ・小テスト ・ノート ・定期考査	・観察 ・レポート ・小テスト ・ノート ・定期考査

上に示す観点に基づいて学習のまとまりごとに評価し、前期期末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

４　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	単元(題材)の評価規準	評価方法
前期中間考査まで	生涯を通じる健康	６加齢と健康	○	○		a：医療・保険制度、医薬品と健康、保健活動についてや、高齢者を取り巻く社会の課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 b：学習したことを、個人及び社会生活や事例などと比較したり、分析したりするなどしている。また、筋道立ててそれらを説明している。 C：それぞれの学習内容について、理解したことを発言したり、記述したりしている。	ノート レポート 小テスト 観察 定期考査
		７高齢者のための社会的取り組み		○	○		
		８保健制度とその活用	○		○		
		９医療制度とその活用	○		○		
		１０医薬品と健康		○	○		
		１１さまざまな保健活動や対策	○	○			
前期期末考査まで	社会生活と健康	１大気汚染と健康	○	○		a：環境問題と健康、環境衛生・食品衛生活動のしくみと働き、労働と健康に関する資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 b：資料等で調べたことを基に、課題を見つけたり、解決の方法を整理するなどして、それらを説明している。 C：それぞれの学習内容について、理解したことを発言したり、記述したりしている。	ノート レポート 小テスト 観察 定期考査
		２水質汚濁・土壌汚染と健康	○	○			
		３健康被害の防止と環境対策	○		○		
		４環境衛生活動のしくみと働き		○			
		５食品衛生活動のしくみと働き		○			
		６食品と環境の保健と私たち	○				
		７働くことと健康	○	○			
		８労働災害と健康		○	○		
		９健康的な職業生活		○	○		

※　表中の観点について　　ａ：関心・意欲・態度　　ｂ：思考・判断　　ｃ：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　保健体育科

教科	保健体育	科目	（学）スポーツサイエンス	単位数	1単位	年次	2年次後期
校内名称	文科選択体育（ライフスポーツ）			ユニット数	1.5	必選別	選
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会的に健康に関心が高まる一方、体を動かしたり、スポーツをする機会は減少し、二極化しているのが現状である。しかし、一生涯使い続ける体を鍛え、育てる時期は今しかない。この時期にこそ正しい体の動かし方や鍛え方、整え方を身に付け、様々な体力を養っていくことが必要である。また、授業を通して仲間とのコミュニケーション力や共に協力して課題を解決していく力を身に付けることも重要である。更に、より分析的に運動を捉えることで、今まで出来なかった事が出来るようになったり、各種目の本質的な楽しさに触れることで豊かなスポーツライフを築くことが出来るのである。

2　学習の到達目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能の習得はもちろん、指導的立場からのスポーツの捉え方や運動を楽しむこと、達成感を味わうことで得られる継続性にも目を向けるとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。体つくり運動については引き続き重点的に取り組む中で、１年次以上に筋力向上を目指していく。また、各人がリーダーシップを発揮することが出来るようになることを目標とする。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断	c:運動の技能	d:知識･理解
観点の趣旨	受身の授業ではなく、常に積極的に授業に取り組む事が大切である。出来る出来ないではなく、いかに前向きに取り組むかということである。また、授業に取り組む中で、周囲の仲間の力量や身体の特性を判断していく事も集団で活動する上では重要である。仲間と協力して、安全にかつライフスポーツ（生涯スポーツ）の特性に触れ、運動の楽しさを味わう。公正・協力・責任・参画などの態度を身に付ける。	知識を活用し、技能の向上につなげる。自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組みを工夫できる。 運動を継続したり、体力や技能向上のための計画を考えることができる。 学習で得た成果を自ら応用･発展させ、生涯にわたって、運動に親しむことができる。	記録や技能向上に挑戦する。運動の合理的な実践を通して、種目特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現するための各領域の運動特性に応じた段階的な技能を身に付ける。 仲間と協力して各種目を楽しむ。	運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康･安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解する。 スポーツの歴史、文化的特性、スポーツとの関わり方について理解する。
評価方法	・出席 ・受講態度 ・レポート 等	・レポート 等	・技能観察 ・技術テスト ・レポート 等	・レポート ・技能観察 等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、関心・意欲・態度50%程度、思考・判断・技能・知識50%程度。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間考査まで		体つくり運動 アルティメット その他	○ ○	○ 	 ○	 ○	a：協力し合いながら主体的に取り組んでいる。また、フェアプレイを大切にしている。 b：自己の技能・体力に応じたプレーを選択している。仲間と課題について話し合っている。 c：状況に応じたディスク操作や仲間との連携した動きから攻防を展開している。 d：技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	授業観察 技術テスト レポート
後期期末考査まで		体つくり運動 スリータッチボール その他	○ ○	○ ○	 ○		a：協力し合いながら主体的に取り組んでいる。また、フェアプレイを大切にしている。 b：自己の技能・体力に応じたプレーを選択している。仲間と課題について話し合っている。 c：状況に応じたラケット操作や仲間との連携した動きから攻防を展開している。 d：技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	授業観察 技術テスト レポート

※　表中の観点について　　a ：関心・意欲・態度　b ：思考・判断　c ：運動の技能　d ：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

芸術（音楽）

学校番号	３０１７

令和２年度　芸術〔音楽〕

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	1,2 単位	年次	2,3 年次
使用教科書	高校生の音楽２　（教育芸術社）３０９						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歌唱（合唱を含む）・器楽（リコーダー、ギター、等の）演奏・創作・鑑賞を柱に学習する。
・音楽Ⅱは音楽Ⅰからの連続履修を原則とするが、進路等の理由で選択変更もあり得る。音楽系の進路を考えている生徒は,早めに担当者まで相談に来ること。
・選択者へアンケートを実施し、生徒の状況及び実技レベル等により、適切に教材を選択する。

2　学習の到達目標

音楽の諸活動を通して，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，個性豊かな表現の能力と、主体的な鑑賞の能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:表現の創意工夫	c:表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように演奏し、表現するかの意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表現している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、感受しながら、楽曲や演奏を解釈し、価値を考えたりして、理解を深め、よさや美しさを味わっている。
評価方法	観察 演奏の聴取	観察 演奏の聴取	観察 演奏の聴取	観察 提出物

上に示す観点に基づいて、a：30%、 b・c・d：70%の割合で評価し、５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				題材の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期	歌唱	【合唱】 発声法 混声三部、 混声四部	○	○	○		a:合唱の楽しさを体験しょうとしている。互いに強調して音楽を作り上げている。 b:合唱の表現上の効果を理解し積極的に表現している。 c:曲にふさわしい発声の仕方で表現している。 各パートのバランスなどに注意して表現している。	観察 演奏の聴取
	鑑賞	【西洋音楽】 曲の背景・内容の理解	○		○	○	a:曲の背景について理解を深めようとしている。 c:曲に使われているさまざまな楽器の演奏法を理解している。 d:作曲者や時代による表現の違いを理解しょうとしている。	観察 提出物
	合奏	【器楽合奏】 様々な楽器に取り組む 小合奏 全体合奏 アンサンブル	○	○	○	○	a 自ら進んで様々な楽器に取り組み、互いに協力して音楽を作り上げている。 b:楽器の響きや特徴を生かして主体的に演奏している。 c:音量やフレーズを意識し調和のとれた合奏をしている。 d:音楽を形づくっている要素を知覚し、特質や雰囲気を感受しながら、音楽に対する理解を深め、美しさを感受している。	観察 演奏の聴取
	創作	【音楽理論】 音符・標記法 音程 音階 リズム創作 編曲	○	○	○		a:リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、主体的に取り組もうとしている。 b:互いの創作を聴き合い、役割をいしきして演奏に工夫を凝らしている。 c： イメージに沿った旋律やリズムの組み合わせ方、記譜の仕方など必要な創作技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	発表	【演奏発表】 選択者による校内発表又は、地域別音楽会参加	○	○	○		a:自ら進んで主体的に演奏に取り組もうとしている。 b:各パートの特徴や役割を理解し、主体的に表現している。 c:効果や表現方法を考えて、曲の雰囲気を作り出している。	観察 演奏の聴取

※ 表中の観点について a:音楽への関心・意欲・態度 b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能 d:鑑賞の能力

※ 原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a, b, c の３観点で、「鑑賞」の分野は a, c, d の３観点で評価をする。

※ 履修年次を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容（題材）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	３０１７

令和２年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の美術２（１１６日文）美Ⅱ　３０４						
副教材等	なし						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・美術Ⅰでの活動体験を基礎に、表現と鑑賞が一体になった課題制作をおこない、制作途中や完成作品の相互鑑賞もおこないます。

・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を相互鑑賞で共有すると、また更に広がったり深まったりします。

２ 学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動の様子 発表の様子	制作の様子 ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発表の内容 レポート

上に示す観点に基づいて、a：25%、 b・c・d：75%の割合で評価し、５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期	美術っていろいろ	【鑑賞】【絵画・彫刻】 【デザイン】 ・オリエンテーション 教科書を鑑賞し、多様な表現について学び、「美術Ⅱ」の学習イメージを持つ。	○			○	a:美術の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 d:美術作品などのよさや美しさを感じ取り、美術の働きや文化ついての理解を深めている。	ワークシート 活動の様子
	「○○の箱」あの作家かな？ あの作品だ！	【絵画・彫刻】 【鑑賞】 ・作品選び 教科書や作品集の中から絵画作品を選ぶ。 ・アイデアスケッチ 模写範囲を決め、その作品世界が箱から出てくるようにスケッチし、支持体の形を決める。 ・制作 板材を下書きの形に糸鋸で切る。 作品に応じて下塗りする。 アクリル絵の具、その他で模写する。 作品に応じて板の側面も着彩する。 裏面に角材を付け、壁面から絵が浮くようにする。 金具を付け、壁面に飾り、見え方を確認する。 ・相互鑑賞	○	○	○	○	a: 代表的な美術作品の世界が箱から現れるように描くことに関心を持ち、表したい絵を選ぼうとしている。 b: 選んだ作者や作品の画風、特徴や中心となるポイントを表そうとしている。 c: 元作品の特徴を表すために、画風に合わせた筆使いや彩色の工夫をし、計画を基に表現している。また見せ方を工夫している。 d: 元の作者の意図や表現の工夫を感じ取り、読み取った作品のエッセンスを自分なりに再表現し、特徴を伝えている。また、他の再表現者の作品の工夫を感じ取っている。	活動の様子 ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品 相互鑑賞ワークシート

	小さな彫刻	【絵画・彫刻】 【鑑賞】 ・粘土成形による立体作品 例鑑賞 ・アイデアスケッチ ・小型の試作 ・制作 粘土成形（1～2Kg） くり抜き （乾燥・素焼き焼成） ・相互鑑賞	○	○	○	○	a: 粘土の可塑性に関心を持ち、その特性をつかみながら構想を練ったり表現しようとしている。 b: 立体を意識して、見る方向や量感を考えながら計画をたてて進めている。 c: 表したい対象物の量感に合わせ、いろいろな方向から形をとらえ、ヘラなどの道具を使いこなして立体に表現している。 d: 作者の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、立体表現について理解を深めている。	活動の様子 ワークシート アイデアスケッチ 試作品 作品 制作途中の作品 作品 相互鑑賞ワークシート

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力
　　c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	３０１７

令和２年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	書Ⅱ　（光村書店）３０８						
副教材等	なし						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅱは書道Ⅰの上に立っての学習で、書の伝統・文化としての理解を深めるために、表現と鑑賞（特に古筆、名筆）の関連を有機的に図りながら、意欲的に取り組ませる。

２ 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、感性を高め、書の文化、伝統についての理解を深め、個性豊かな表現力を伸ばすことを目標とする。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	芸術や自然などの美に触れたときに起こる効果的な表現をしょうという意欲や態度を身につけさせる。	書かれた文字と表現の構想や技法が混然一体となって自己の人間性を表現させるよう工夫させる。	書道Ⅱでは、古典の範囲を広げ、表現力を拡充させる必要があることから王羲之の行書、仮名の高野切第１、第２、第３等の美を体験させる。	工夫は草稿から完成までの制作過程を意義あるものにするために欠くことのできない活動であり、古筆や古典、名筆といわれる作品を多く取り上げる。
評価方法	観察	提出作品	提出作品	提出作品

上に示す観点に基づいて、a:10%, b:50%, c:30%, d:10%の割合で評価し、５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期	行書を学ぶ	・2年次は1年生での活動を踏まえた上で、まず道具に慣れることから始める。て、特に行書と仮名の表現に取り組ませる。 ・行書の古典 王羲之の書と伝えられる蘭亭叙の張金界奴本を学ぶ ・マスターした所まで全部、半切におさめ仕上げる ・ハガキ制作 篆刻・印の作成・墨色の工夫 ・墨絵による立体表現方法を学ぶ	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解	提出作品
	仮名を学ぶ	・仮名の古筆を中心に製作 （高野切第1・第3種、寸松庵色紙、関戸本古今集等）料紙にて仕上げる	○	○	○	○	a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解	提出作品

※　表中の観点について　a：書への関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
c：創造的な書表現の技能　　d：知識・理解

学校番号	3017

令和２年度　英語科

教科	英語	科目	総合英語 異文化理解	単位数	前期： 総合英語 ２単位 後期： 総合英語 １単位 異文化理解 1単位	年次	２年次
校内名称	英語Ｒ			ユニット数	3	必選別	必
使用教科書	CROWN English Communication Ⅱ New Edition CROWN English Communication Ⅲ New Edition						
副教材等	Next Stage[ネクストステージ]英文法・語法問題 4th Edition（桐原書店） 四訂版 Workbook for Practice マスターコース 文法・語法演習 入試発展（数研出版） シニア イフェクティヴ Sr. Effective（エスト出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

いっそうに国際化が進んでいく世の中において、読むこと・書くこと・聞くこと・話すことの４技能を統合した英語力がますます求められることは既知の事実だろう。そうした４技能統合型の英語力を身に着けようとするならば、英文を読みほどく力が必須となることは明らかである。たとえば、まとまった英文を聴解するためには、まとまった英文を読解できる必要がある。また、まとまった英文を書くためには、英語の文章構造に慣れ親しんでおく必要がある。その文章構造に慣れ親しむ場が、英文読解である。そうして身につけていく書く力がそのまま話す力にも転用されていくこととなる。もちろん、それら４技能は相互に作用しあいながら伸びていくものであるが、読解力のもたらす影響は計り知れないと考える。

４技能すべてを支えうる読解力を養うために、１年次より行っている「構文を見抜きながら読む」ことを継続して行う。以下に、昨年度示した予習・復習方法を再掲する。自身の英語力を鑑みて、もう一度このように授業に臨んでほしい。

[予習]１）事前に範囲に目を通し、全体の内容をつかむ。２）分からない単語・熟語を調べてくることは当然であるが、本文の流れなどからも意味を類推するように努めること。教科書本文に関しては日本語の語順に直した全訳を作ってくる必要はない。できる限り英語のまま内容を理解することを最終目標とする。また、一年次に学習した文法事項が、文章中にどのように使われているかを自身で確認しておくこと。そのさいには、適宜文法書を参考すること。

[授業]予習で分からなかったことを確認する。本文の英語表現が自分のものとなるように、授業中の音読・ペアワーク・発言などの活動に積極的な態度で参加すること。

[復習]教材の内容を理解しながら、よどみなく読めるようになるまで、シャドウイング、オーバーラッピング、トランスレーションなどの方法を使って、音読の練習をする。

また２年次より、読解力の基礎となる文法事項の定着を図るための演習も行っていく。すべて既習事項である。演習を通じ、定着できていない単元を見つけ、随時復習に励んでほしい。

2　学習の到達目標

７４期は、激動の大学入試改革の真っただ中にいる。求められる英語力は変わらぬものの、それがどのように測られるのか依然不透明なままである。そうしたなかにあれど、どのような場面であっても発揮できる英語力を身につけることを目標とする。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:技能	d:知識･理解
観点の趣旨	意欲的に授業参加することができているか 授業中のアクティビティ等の取り組みに、積極的に参加できているか	インプット情報を整理し、アウトプットに必要な情報を取捨選択できているか正しい英語の表現ができているか	ある程度のまとまった長さの英文、図やグラフを読み取り、理解できているか、それらを適切に用いたリスニングやスピーキングができているか	リーディング・リスニング・スピーキングに必要な単語力、科学、人文学、社会学などの知識を持っているか
評価方法	出席・アクティビティ・課題提出	考査・課題提出	考査・ワークシート	考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

4　学習の活動

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Lesson 1 (4時間)	劇作家・平田オリザが、16歳のときに決意したアメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅を通して、その後の人生に与えた影響について考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		劇作家・平田オリザが16歳の時に行った、アメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅について、自身の意見もまとめて話すことができる。	劇作家・平田オリザが16歳の時に行った、アメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅を考える。	劇作家・平田オリザが16歳の時に行った、アメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅ついて、自身の意見もまとめて話すことができているか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		関係代名詞の非制限用法／不定詞の意味上の主語／動名詞の意味上の主語を理解できる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	関係代名詞の非制限用法／不定詞の意味上の主語／動名詞の意味上の主語を理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		劇作家・平田オリザが16歳の時に行った、アメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅について、正しく理解できる。	劇作家・平田オリザが16歳の時に行った、アメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅について、正しく理解する。	劇作家・平田オリザが16歳の時に行った、アメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		劇作家・平田オリザが16歳の時に行った、アメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅について、正しく理解できる。	劇作家・平田オリザが16歳の時に行った、アメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅について、正しく理解する。	劇作家・平田オリザが16歳の時に行った、アメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中での発問に対する答えを判断材料として活用する。

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Lesson 2 (4時間)	史上最強の棋士といわれる羽生善治の勝負観から、さらには人生哲学に触れる。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		羽生善治の勝負観・人生哲学について、自身の意見もまとめて話すことができる。	羽生善治の勝負観・人生哲学を考える。	羽生善治の勝負観・人生哲学ついて、自身の意見もまとめて話すことができているか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		関係副詞の非制限用法／受け身・否定の分詞構文／S+V+O (O=whether節) を理解できる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	関係副詞の非制限用法／受け身・否定の分詞構文／S+V+O (O=whether節) を理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		羽生善治の勝負観・人生哲学について、正しく理解できる。	羽生善治の勝負観・人生哲学について、正しく理解する。	羽生善治の勝負観・人生哲学について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		羽生善治の勝負観・人生哲学について、正しく理解できる。	羽生善治の勝負観・人生哲学について、正しく理解する。	羽生善治の勝負観・人生哲学について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中での発問に対する答えを判断材料として活用する。

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Lesson 3 (4時間)	世の中には、過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」がある。その存在について知る。	過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」について、自身の意見もまとめて話すことができる。	過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」を考える。	過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」ついて、自身の意見もまとめて話すことができているか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		前置詞+関係代名詞／助動詞+have+過去分詞／It is known that ～を理解できる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	前置詞+関係代名詞／助動詞+have+過去分詞／It is known that ～を理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」について、正しく理解できる。	過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」について、正しく理解する。	過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」について、正しく理解できる。	過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」について、正しく理解する。	過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中での発問に対する答えを判断材料として活用する。

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Lesson 4 (4時間)	「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動を通じて、国際協力について考える。	「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動について、自身の意見もまとめて話すことができる。	「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動を考える。	「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動について、自身の意見もまとめて話すことができているか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		不定詞+前置詞／完了進行形／強調構文を理解できる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	不定詞+前置詞／完了進行形／強調構文を理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動について、正しく理解できる。	「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動について、正しく理解する。	「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動について、正しく理解できる。	「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動について、正しく理解する。	「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中での発問に対する答えを判断材料として活用する。

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Lesson 5 (4時間)	18c～19c、アメリカ南東部に居住するチェロキーの母語を守る闘いを通して、民族にとって母語を失わないことの意味を考える。	民族にとって母語を失わないことの意味について、自身の意見もまとめて話すことができる。	民族にとって母語を失わないことの意味を考える。	民族にとって母語を失わないことの意味ついて、自身の意見もまとめて話すことができているか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		複合関係詞／不定詞の完了形／比較級+than S+Vを理解できる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	複合関係詞／不定詞の完了形／比較級+than S+Vを理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		民族にとって母語を失わないことの意味について、正しく理解できる。	民族にとって母語を失わないことの意味について、正しく理解する。	民族にとって母語を失わないことの意味について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		民族にとって母語を失わないことの意味について、正しく理解できる。	民族にとって母語を失わないことの意味について、正しく理解する。	民族にとって母語を失わないことの意味について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中での発問に対する答えを判断材料として活用する。

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Lesson 6 (4時間)	興福寺・阿修羅像の魅力を探るとともに、奈良時代の東洋と西洋の交流について知る。	興福寺・阿修羅像の魅力、奈良時代の東洋と西洋の交流について、自身の意見もまとめて話すことができる。	興福寺・阿修羅像の魅力、奈良時代の東洋と西洋の交流を考える。	興福寺・阿修羅像の魅力、奈良時代の東洋と西洋の交流ついて、自身の意見もまとめて話すことができているか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		結果を表す不定詞／倒置／無生物主語の他動詞構文を理解できる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	結果を表す不定詞／倒置／無生物主語の他動詞構文を理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		興福寺・阿修羅像の魅力、奈良時代の東洋と西洋の交流について、正しく理解できる。	興福寺・阿修羅像の魅力、奈良時代の東洋と西洋の交流について、正しく理解する。	興福寺・阿修羅像の魅力、奈良時代の東洋と西洋の交流について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		興福寺・阿修羅像の魅力、奈良時代の東洋と西洋の交流について、正しく理解できる。	興福寺・阿修羅像の魅力、奈良時代の東洋と西洋の交流について、正しく理解する。	興福寺・阿修羅像の魅力、奈良時代の東洋と西洋の交流について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中での発問に対する答えを判断材料として活用する。

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Lesson 7 (4時間)	新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生について考える。	新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生について、自身の意見もまとめて話すことができる。	新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生を考える。	新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生ついて、自身の意見もまとめて話すことができているか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		仮定法現在／if 節のない仮定法／未来に関する仮定法を理解できる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	仮定法現在／if 節のない仮定法／未来に関する仮定法を理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生について、正しく理解できる。	新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生について、正しく理解する。	新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生について、正しく理解できる。	新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生について、正しく理解する。	新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中での発問に対する答えを判断材料として活用する。

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Lesson 8 (4時間)	世界では多くの人が地雷の犠牲になっている。ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性を学ぶ。	ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性について、自身の意見もまとめて話すことができる。	ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性を考える。	ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性ついて、自身の意見もまとめて話すことができているか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		完了の分詞構文／受け身の進行形／S is C (C=whether節)を理解できる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	完了の分詞構文／受け身の進行形／S is C (C=whether節)を理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性について、正しく理解できる。	ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性について、正しく理解する。	ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性について、正しく理解できる。	ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性について、正しく理解する。	ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性について、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中での発問に対する答えを判断材料として活用する。

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Lesson 9 (5時間)	「はやぶさ」の苦難の帰還をたどりながら、困難に屈さず前進することの大切さを学ぶ。	困難に屈さず前進することについて、自身の意見もまとめて話すことができる。	困難に屈さず前進することを考える。	困難に屈さず前進することついて、自身の意見もまとめて話すことができているか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		独立分詞構文／未来進行形／未来完了形を理解できる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	独立分詞構文／未来進行形／未来完了形を理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		困難に屈さず前進することについて、正しく理解できる。	困難に屈さず前進することについて、正しく理解する。	困難に屈さず前進することについて、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		困難に屈さず前進することについて、正しく理解できる。	困難に屈さず前進することについて、正しく理解する。	困難に屈さず前進することについて、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中での発問に対する答えを判断材料として活用する。

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
Lesson 10 (6時間)	家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さについて考える。	家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さについて、自身の意見もまとめて話すことができる。	家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さを考える。	家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さついて、自身の意見もまとめて話すことができているか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		不定詞の受け身／動名詞の受け身を理解できる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	不定詞の受け身／動名詞の受け身を理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さについて、正しく理解できる。	家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さについて、正しく理解する。	家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さについて、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さについて、正しく理解できる。	家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さについて、正しく理解する。	家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さについて、正しく理解できたか。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中での発問に対する答えを判断材料として活用する。

学校番号	3017

令和２年度　英語科

教科	英語	科目	英語表現	単位数	前期：１	年次	２年次
校内名称	英語W			ユニット数	1.5	必選別	必
使用教科書							
副教材等	Basic Skills for the TOEFL iBT Listening 2 (Compass Publishing) Basic Skills for the TOEFL iBT Speaking 2 (Compass Publishing) システム英単語						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「英語W」では、これまでに身に着けてきた語彙力とハイレベルなリスニング力をさらに強化し、その上で、1時間の中でReading→Listening→Speakingの順で4技能統合型Writingの授業を行う。Writingは決して感覚で書くものではなく、確実な語彙、明快な文法、一貫した論理展開をもって書くものである。「英語W」ではその力を養う。

授業では、毎回シス単小テストを行い、Listening と4技能統合型Writingはハンドアウトを用いてペアワークを中心に行う。積極的な態度で参加すること。

復習としては、小テストの復習、Reading・Listeningの語彙・文法の確認、Listeningのスクリプト暗唱、Speaking・Writing で自分に不足していると感じた語彙・文法・構文の復習に取り組むこと。

2　学習の到達目標

大学入試および大学進学後に求められるSpeaking, Writing の力は、日常会話レベルや日記レベルではない。高い専門性と論理性を備えた、学術的な発表および論文レベルの英語力が求められる。高いレベルの英語の力は定着するのに一年以上かかる。そのことを念頭に置いて、2年次から語彙・文法・論理展開の力を磨いてゆき、最終的にアカデミックレベルの英語力に到達することを目標とする。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:技能	d:知識･理解
観点の趣旨	意欲的に授業参加することができているか 授業中のアクティビティ等の取り組みに、積極的に参加できているか	インプット情報を整理し、アウトプットに必要な情報を取捨選択できているか 正しい英語の表現ができているか	ある程度のまとまった長さの英文を読み、聞いて理解できているか それらを適切に用いたスピーキング・ライティングができるか	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングに必要な文法知識、科学、人文学、社会学などの知識を持っているか
評価方法	出席・アクティビティ・課題提出	考査・ハンドアウト	考査・ハンドアウト	考査・小テスト・課題提出

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

4　学習の活動

4　学習の活動

単元 （配当時間）	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
前期中間 10時間	芸術・植物学・地理学 について、その特性・データ・問題点・筆者の考えを述べた内容。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		間違うことを恐れず、積極的に芸術・植物学・地理学についての情報や考えについて話す。	段落ごとの内容に対する感想や意見について話すためのキーワードをメモし、それを参考にしながらペアまたはグループで伝え合う。	間違うことを恐れず、積極的に芸術・植物学・地理学についての情報や考えについて話している。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		この単元で学んだ語句や表現を用いて、芸術・植物学・地理学についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話す。	芸術・植物学・地理学について、データや数値などの情報をリテリングし、自身の考えなどをペア・グループで互いに発表しあう。	この単元で学んだ語句や表現を用いて、芸術・植物学・地理学についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話すことができる。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズにを正確に理解し、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		本文の内容を理解する際に必要な芸術・植物学・地理学の文化的歴史的背景について理解する。	本文の内容を理解する際に必要な芸術・植物学・地理学の文化的歴史的背景について調べたり確認したりし、ペア・グループで情報を交換する。	本文の内容を理解する際に必要な芸術・植物学・地理学の文化的歴史的背景について理解できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
前期期末 10時間	文学・政治・言語 について、その特性・データ・問題点・筆者の考えを述べた内容。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		間違うことを恐れず、積極的に文学・政治・言語についての情報や考えについて話す。	段落ごとの内容に対する感想や意見について話すためのキーワードをメモし、それを参考にしながらペアまたはグループで伝え合う。	間違うことを恐れず、積極的に文学・政治・言語についての情報や考えについて話している。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		この単元で学んだ語句や表現を用いて、文学・政治・言語についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話す。	文学・政治・言語について、データや数値などの情報をリテリングし、自身の考えなどをペア・グループで互いに発表しあう。	この単元で学んだ語句や表現を用いて、文学・政治・言語についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話すことができる。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズにを正確に理解し、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		本文の内容を理解する際に必要な文学・政治・言語の文化的歴史的背景について理解する。	本文の内容を理解する際に必要な文学・政治・言語の文化的歴史的背景について調べたり確認したりし、ペア・グループで情報を交換する。	本文の内容を理解する際に必要な文学・政治・言語の文化的歴史的背景について理解できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。

単元 （配当時間）	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
後期中間 10時間	歴史・建築・化学 について、その特性・データ・問題点・筆者の考えを述べた内容。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		間違うことを恐れず、積極的に歴史・建築・化学についての情報や考えについて話す。	段落ごとの内容に対する感想や意見について話すためのキーワードをメモし、それを参考にしながらペアまたはグループで伝え合う。	間違うことを恐れず、積極的に歴史・建築・化学についての情報や考えについて話している。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		この単元で学んだ語句や表現を用いて、歴史・建築・化学についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話す。	歴史・建築・化学について、データや数値などの情報をリテリングし、自身の考えなどをペア・グループで互いに発表しあう。	この単元で学んだ語句や表現を用いて、歴史・建築・化学についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話すことができる。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズにを正確に理解し、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		本文の内容を理解する際に必要な歴史・建築・化学の文化的歴史的背景について理解する。	本文の内容を理解する際に必要な歴史・建築・化学の文化的歴史的背景について調べたり確認したりし、ペア・グループで情報を交換する。	本文の内容を理解する際に必要な歴史・建築・化学の文化的歴史的背景について理解できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
後期期末 10時間	環境・健康・科学技術 について、その特性・データ・問題点・筆者の考えを述べた内容。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		間違うことを恐れず、積極的に環境・健康・科学技術についての情報や考えについて話す。	段落ごとの内容に対する感想や意見について話すためのキーワードをメモし、それを参考にしながらペアまたはグループで伝え合う。	間違うことを恐れず、積極的に環境・健康・科学技術についての情報や考えについて話している。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		この単元で学んだ語句や表現を用いて、環境・健康・科学技術についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話す。	環境・健康・科学技術について、データや数値などの情報をリテリングし、自身の考えなどをペア・グループで互いに発表しあう。	この単元で学んだ語句や表現を用いて、環境・健康・科学技術についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話すことができる。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズにを正確に理解し、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		本文の内容を理解する際に必要な環境・健康・科学技術の文化的歴史的背景について理解する。	本文の内容を理解する際に必要な環境・健康・科学技術の文化的歴史的背景について調べたり確認したりし、ペア・グループで情報を交換する。	本文の内容を理解する際に必要な環境・健康・科学技術の文化的歴史的背景について理解できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、授業中のスピーキング評価、および定期考査のリスニング部分を判断材料として活用する。

令和２年度　　外国語・英語

教科	英語	科目	（学）英語演習	単位数	後期：１	年次	２年次
校内名称	英語演習			ユニット数	1.5	必選別	選
使用教科書	なし						
副教材等	SKYWARD CLOUDS Course 2nd Edition（桐原書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

英語演習の授業では、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの４技能の力を総合的に身につけるべく、演習中心の授業を行う。
予習：長文問題は辞書を調べず、単語を予測しながら読んでほしい。文法構造が難しい箇所は文構造を確認しながら、意味をとるようにすること。授業前には全て問題に解答しておくように。
授業：授業では抽象度の高い文章を読むための「精読」を行う。難解な文章については、文構造も確認しながら内容を把握し、記述問題の解き方を学ぶ。受験に必要な文法・重要表現の復習、語彙力の増強、「精読」の力を伸ばすことで、３年次での本格的な実践演習に備える。
復習：本文を音読し、単語・熟語の意味、発音、文法ポイントなどを確認しながら本文を暗唱すること。

2　学習の到達目標

記述式問題を解くために必要な読解力を身につける。文構造を把握し、文意を理解することができる。また、高いレベルでの４技能習得を目指す。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:技能	d:知識･理解
観点の趣旨	意欲的に授業参加することができているか 授業中のアクティビティ等の取り組みに、積極的に参加できているか	インプット情報を整理し、アウトプットに必要な情報を取捨選択できているか、問いに対する適切な表現ができているか	ある程度のまとまった長さの英文、図やグラフを読み取り、理解できているか	読解に必要な背景知識ならびに問題演習に必要な英文法
評価方法	出席・授業への取り組み	考査	考査・授業での課題	考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点９０％程度、平常点１０％程度です。

3　学習評価（評価の観点と実施方法）

観点	コミュニケーションへの関心･意欲･態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識理解
実施方法	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを的確に評価できる方法で実施	CAN-DOリストによる「話すこと」と「書くこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施	CAN-DOリストによる「聞くこと」と「読むこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解しているかどうかを的確に評価できる方法で実施

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点９５％程度、平常点５％程度です。

4　学習の活動

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価規準	評価方法
SKYWARD CLOUDS Course 2nd Edition 1～10 後期中間 10時間	大衆文化・自然環境・社会生活・エネルギー等 について、その特性・データ・問題点・筆者の考えを述べた内容。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		間違うことを恐れず、積極的に大衆文化・自然環境・社会生活・エネルギー等についての情報や考えについて話す。	段落ごとの内容に対する感想や意見について話すためのキーワードをメモし、それを参考にしながらペアまたはグループで伝え合う。	間違うことを恐れず、積極的に大衆文化・自然環境・社会生活・エネルギー等についての情報や考えについて話している。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		この単元で学んだ語句や表現を用いて、大衆文化・自然環境・社会生活・エネルギー等についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話す。	大衆文化・自然環境・社会生活・エネルギー等について、データや数値などの情報をリテリングし、自身の考えなどをペア・グループで互いに発表しあう。	この単元で学んだ語句や表現を用いて、大衆文化・自然環境・社会生活・エネルギー等についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話すことができる。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズにを正確に理解し、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、および定期考査のリスニングを含めた問題解答を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		本文の内容を理解する際に必要な大衆文化・自然環境・社会生活・エネルギー等の文化的歴史的背景について理解する。	本文の内容を理解する際に必要な大衆文化・自然環境・社会生活・エネルギー等の文化的歴史的背景について調べたり確認したりし、ペア・グループで情報を交換する。	本文の内容を理解する際に必要な大衆文化・自然環境・社会生活・エネルギー等の文化的歴史的背景について理解できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、および定期考査のリスニングを含めた問題解答を判断材料として活用する。
SKYWARD CLOUDS Course 2nd Edition 11～20 後期期末 10時間	言語・環境論・健康・医学・政治等 について、その特性・データ・問題点・筆者の考えを述べた内容。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		間違うことを恐れず、積極的に言語・環境論・健康・医学・政治等についての情報や考えについて話す。	段落ごとの内容に対する感想や意見について話すためのキーワードをメモし、それを参考にしながらペアまたはグループで伝え合う。	間違うことを恐れず、積極的に言語・環境論・健康・医学・政治等についての情報や考えについて話している。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		この単元で学んだ語句や表現を用いて、言語・環境論・健康・医学・政治等についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話す。	言語・環境論・健康・医学・政治等について、データや数値などの情報をリテリングし、自身の考えなどをペア・グループで互いに発表しあう。	この単元で学んだ語句や表現を用いて、言語・環境論・健康・医学・政治等についての情報や考えなどを、聞き手に伝わるように話すことができる。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、および定期考査の記述部分を判断材料として活用する。
		「外国語理解の能力」			
		ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズにを正確に理解し、論理展開を把握する。	ディスコースマーカーやキーフレーズに注意して文章を読み、論理展開を把握できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、および定期考査のリスニングを含めた問題解答を判断材料として活用する。
		「言語や文化についての知識・理解」			
		本文の内容を理解する際に必要な言語・環境論・健康・医学・政治等の文化的歴史的背景について理解する。	本文の内容を理解する際に必要な言語・環境論・健康・医学・政治等の文化的歴史的背景について調べたり確認したりし、ペア・グループで情報を交換する。	本文の内容を理解する際に必要な言語・環境論・健康・医学・政治等の文化的歴史的背景について理解できている。	ペア・グループワークの様子、授業中の提出物、および定期考査のリスニングを含めた問題解答を判断材料として活用する。

令和2年度　(学)ＳＳ理数

教科	ＳＳ理数	科目	ＳＳ数学Ⅱ	単位数	前期２， 後期３(文科)，４(理科)	年次	２年次
校内名称	数学Ⅱ 数学Ｂ	ユニット数	前期１．５，後期２．５(文科)，３．０(理科) 前期１．５，後期２．０	必選別	必修		
使用教科書	（文理共通）詳説数学Ⅱ－改訂版－（啓林館），詳説数学Ｂ－改訂版－（啓林館） （理科のみ）詳説数学Ⅲ－改訂版－（啓林館）						
副教材等	（文理共通） 改訂版サクシード数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版），改訂版チャート式基礎からの数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版） （理科のみ） 改訂版サクシード数学Ⅲ（数研出版），改訂版チャート式基礎からの数学Ⅲ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

（１）予習をする
① 授業に集中するためには，事前にわからないところを明確にしておくことが大切である。

（２）復習をする
① 数学では復習が極めて重要である。
② 授業で習ったところをその日のうちに復習する。遅くとも次の授業までには済ませる。復習は次に授業の準備にもなる。

（３）問題集を解く
① 問題集は時間をおいて繰り返し解く。
② わからない問題を放置しないこと。まずは参考書で調べ，それでもわからなければ質問して速やかに解決しておく。
③ 計算を軽んじてはいけない。

（４）参考書を活用する
① 参考書によって，答案の書き方を身につける。
② 詳しい解説が載っていることもあるので，普段から参考書を読むことを心掛ける。

（５）問題集・参考書は学校で買ったものを十分に活用する
① いろいろな問題集・参考書に手を出すよりも，一冊に繰り返し取り組み，完全に理解する方が効果的である。

また，数学の問題を解く上で大切なことは「解き方を覚える」のではなく，「自分の持っている知識を使って解いていく」ことである。すぐに解答に頼らず，自分で考える習慣をつけること。

2　学習の到達目標

対数関数，微積分，極限，ベクトル，数列，複素数，２次曲線，極座標について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を目標とする。また，事象を数学的に考察し表現する能力を養い，それらを活用する態度を身につけることを目標とする。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識･理解
観点の趣旨	数学の考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学における数学的な見方や考え方を身につけている。	数学において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	数学における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身につけている。
評価方法	提出課題 観察等	考査 提出課題 観察等	考査 提出課題 観察等	考査 提出課題 観察等

上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は，考査点９０％程度，平常点１０％程度です。

4　学習の活動　　校内名称「数学Ⅱ」

	期間	単元	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
文科・理科共通	前期中間考査まで	対数と対数関数	対数 対数関数 常用対数	○ ○	○ ○	 ○	○ ○ ○	a:対数の性質について関心を示し，具体的な事象に活用することができる。 b:指数の逆として対数をとらえ，指数法則から積，商，累乗の対数を導くことを考察することができる。 c:対数関数をグラフに表すことができ，対数関数を含む方程式，不等式を解くことができる。 d:対数の意味とその必要性を理解し，人間の感じ方の尺度に対数が活用されていることについての知識を身に付けている。	考査 提出課題 観察等
		微分	平均変化率と微分係数 導関数 接線の方程式 関数の増減	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○	a:平均変化率，微分係数，導関数の考え方に関心を持ち，導関数を活用して関数の値の変化を調べようとする。 b:導関数の意味をグラフと関連づけて，数学的に考察し，関数の値の増減やグラフを利用して，方程式の実数解の個数を調べたり，不等式を証明したりできる。 c：導関数の定義にしたがって，関数を微分することができる。また，接線の方程式を求めることができる。 d:接線とその方程式，極値，関数の最大値と最小値について，その意味と求め方について理解し，基礎的な知識を身に付けている。	考査 提出課題 観察等
	前期期末考査まで	微分	関数の増減 方程式・不等式への応用	○ 	○ ○	 ○	○ 		
		積分	不定積分 定積分 面積と定積分	○ ○ 	 ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:微分の逆演算としての積分，および面積と定積分の関係に関心をもつ。 b:直線や放物線に囲まれた簡単な図形について，その面積の求め方を数学的に考察することができる。 c:関数の和，差および定数倍の不定積分を求めることができる。また，定積分を用いて，直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができる。 d:微分と積分の関係，定積分の定義，面積と定積分の関係について理解し，簡単な図形の面積の求め方の知識を身につけている。	考査 提出課題 観察等
理科	後期中間考査まで	数列の極限	無限数列と極限 無限等比数列 無限級数 無限等比級数 無限級数の応用 無限級数の性質	○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:無限数列や無限級数の極限に関心を持ち，それをいろいろな事象の考察に活用しようとする。 b:無限数列や無限級数と収束，発散の関連を考察することができる。 c:無限数列の収束，発散，および漸化式で表された数列の極限を判定することができ，無限級数を利用していろいろな事象の極限を調べることができる。 d:無限級数や無限級数の収束，発散の関係を理解している。	考査 提出課題 観察等
		関数とその極限	分数関数・無理関数 逆関数・合成関数 関数の極限 三角関数の極限 関数の連続性 連続関数の性質	○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○ ○	a:分数関数や無理関数などの関数や，合成関数，逆関数などの概念について関心を持ち，関数値の極限を関数の連続性の概念の理解に活用しようとする。 b:分数関数や無理関数について，式とグラフを関連づけて考察することができ，合成関数や逆関数などの概念を考察することができる。また，関数の連続性について，関数値の極限を用いて考察することができる。 c:合成関数，無理関数を求めることができ，グラフや式を利用して，方程式，不等式を解くことができる。また，いろいろな関数について，極限の様子を調べたり，連続性を調べたりすることができる。 d:分数関数や無理関数，合成関数や逆関数の定義や性質，関数値の極限の様子，連続関数の性質について理解している。	考査 提出課題 観察等

校内名称「数学Ⅱ」（続き）

	期間	単元	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
理科	後期期末考査まで	微分法	微分可能と連続	○			○	a:いろいろな関数について微分を考え，グラフやいろいろな事象の考察に活用しようとする。また，第２次導関数を利用して，グラフの凹凸を調べ，グラフの概形について考察しようとする。 b:微分の定義から，いろいろな関数の導関数を考察することができ，導関数を利用して，関数の増減や，いろいろな事象を考察することができる。また，第２次導関数を利用して，グラフの概形を考察することができる。 c:いろいろな関数の導関数を求めることができ，関数の増減を調べ，最大値・最小値を求めることができる。また，接線の方程式を求めたり，第２次導関数を利用して，グラフの概形を調べたりすることができる。 d:微分法の意味，微分可能性と連続性の関係，いろいろな関数の導関数について理解し，導関数と関数の増減の関係を理解している。また，第２次導関数とグラフの凹凸の関係を理解している。	考査 提出課題 観察等
			微分と導関数	○	○	○	○		
			合成関数と逆関数の微分法		○	○	○		
			三角関数の導関数		○	○	○		
			対数関数・指数関数の導関数		○	○	○		
			高次導関数		○		○		
			接線の方程式		○	○	○		
			平均値の定理		○	○			
			関数の増減	○	○		○		
			グラフの凹凸	○	○		○		
			第２次導関数と極大・極小		○		○		
			最大・最小		○	○	○		
			方程式・不等式への応用		○	○			
			速度と加速度		○				
			関数の近似式		○				
文科	後期	総合演習	総合演習	○	○	○	○	a:演習に積極的に取り組もうとしている。 b:演習において，事象を数学的に考察したり，思考の過程を振り返り，多面的・発展的に考えたりすることができる。 c:演習において，事象を数学的に表現・処理する方法や推論の技能を身につけている。 d:数学における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身につけている。	考査 演習課題 観察等

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　b：思考・判断・表現　c：技能　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが，学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。

校内名称「数学Ｂ」

	期間	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
文科・理科 共通	前期中間考査まで	空間のベクトル	位置ベクトル	○	○	○	○	a:空間のベクトルに関心を持ち，それを空間図形の考察に活用しようとする。 b:空間のベクトルを用いて，空間図形の性質などを考察することができる。 c:空間図形の考察において，座標やベクトルを用いて処理することができる。 d:空間座標を用いた表現や空間のベクトルの演算を理解し，それを利用して空間図形の性質を表現できる。	考査 提出課題 観察等
		数列	数列とその項	○		○	○	a:数列とその和及び漸化式と数学的帰納法に関心をもつとともに，その有用性を認識し，事象の考察に活用しようとする。 b:いろいろな数列の規則性を見つけ，一般項やその和を考えることができ，漸化式から一般項を導く方法を考えることができる。また，自然数に関する等式や不等式などの証明で，数学的帰納法を適用することができる。 c:数列の規則性を見つけ，その一般項や和を求めることができ，漸化式で表された数列の一般項を求めることができる。また，数学的帰納法を利用して等式や不等式を証明することができる。 d:数列や漸化式，数学的帰納法の基本的な概念を理解し，知識を身につけている。	考査 提出課題 観察等
			等差数列	○	○		○		
			等比数列	○	○		○		
			和の記号Σ			○	○		
			累乗の和	○	○		○		
	前期期末考査まで	数列	階差数列		○		○		
			数列の和と一般項		○		○		
			いろいろな数列の和		○	○			
			漸化式	○	○	○	○		
			数学的帰納法	○	○	○	○		
理科	後期中間考査まで	複素数平面	複素数平面	○	○		○	a:複素数を座標平面上の点に対応させて表示し，それを事象の考察に活用することができる。 b:複素数を極形式で表し，図形的な考察をすることができる。また，平面図形を複素数を利用して考察することができる。 c:複素数を極形式で表し，その演算を図示することができる。また，図形を複素数を用いて表すことができ，複素数で表された等式の図形的な意味を述べることができる。 d:複素数平面の基本的な概念，複素数の演算の図形的な意味，複素数平面上の図形と複素数との関連を理解している。	考査 提出課題 観察等
			複素数の極形式		○	○	○		
			ド・モアブルの定理		○	○	○		
			平面図形と複素数	○	○	○	○		
	後期期末考査まで	平面上の曲線	放物線・楕円・双曲線	○		○	○	a:２次曲線の基本的な性質を具体的な事象の考察に活用しようとする。また，媒介変数表示や極座標を用いて，いろいろな曲線を表すことに関心を持っている。 b:２次曲線の性質と方程式を関連づけて考察することができる。また，いろいろな曲線を媒介変数表示や極座標を用いて，事象を考察することができる。 c:２次曲線の方程式を利用して，焦点・軸や接線などを調べることができる。また，いろいろな曲線を媒介編集や極座標を用いて表すことができる。 d:２次曲線の定義や性質を理解している。また，媒介変数表示や極座標の意味を理解している。	考査 提出課題 観察等
			２次曲線の平行移動		○				
			２次曲線と直線の共有点		○				
			２次曲線と離心率		○		○		
			曲線の媒介変数表示	○	○	○	○		
			極座標と極方程式	○	○	○	○		
			いろいろな曲線	○	○	○			
文科	後期	総合演習	総合演習	○	○	○	○	a:演習に積極的に取り組もうとしている。 b:演習において，事象を数学的に考察したり，思考の過程を振り返り，多面的・発展的に考えたりすることができる。 c:演習において，事象を数学的に表現・処理する方法や推論の技能を身につけている。 d:数学における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身につけている。	考査 演習課題 観察等

※　表中の観点について　　ａ：関心・意欲・態度　ｂ：思考・判断・表現　ｃ：技能　ｄ：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが，学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　(学)ＳＳ理数

教科	SS理数	科目	SS物理	単位数	４単位	年次	２年次
校内名称	物理			ユニット数	6.0u	必選別	選択
使用教科書	物理基礎（数研出版）、物理（数研出版）						
副教材等	リードα物理基礎・物理（数研出版）、フォトサイエンス物理図解（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

物理学は、運動と力を扱う「力学」から始まります。では、なぜ、「力学」から始まるのでしょうか？　それは、私たちが経験する多様な自然界の背後には、極めて単純な力学の原理・法則があるからです。水面波や音波などの「波動」は力学現象が空間を満たす媒質を介して伝わる現象であり、「熱」は分子の運動によるものです。力学の原理・法則から自然界のいろいろな現象の理由を解明する面白さ、さらには起こる現象を予測してみる楽しさを学んでいってください。

2　学習の到達目標

物理的な事物・現象の探究を通して、物理学的に探究していく能力と態度を身につけ、物理学の基本的な原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけていきます。２年の物理では、力学、波動、熱の分野において、この目標に向かっていきます。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:観察･実験の技能	d:知識･理解
観点の趣旨	物理学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	物理学的な事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な事物・現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録・発表	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 授業の基礎確認 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 観察・実験の記録 授業の基礎確認 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 観察・実験の記録 授業の基礎確認 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
前期中間考査まで	運動と力	速度				○	a：運動と力に関する事物・現象について関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとしている。 b：運動と力に関する事物・現象の中に問題を見いだし、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 c：運動と力に関する事物・事情について、観察・実験を行い、記録・整理する等、科学的に探究する技能を身につけている。 d：運動と力に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、知識を身につけている。	学習状況 ノート ワークシート 観察・実験 探究活動 授業の基礎確認 定期考査
		加速度				○		
		落体の運動			○			
		力とそのはたらき	○					
		力のつりあい	○					
		剛体にはたらく力のつりあい		○				
		運動の法則				○		
		抵抗力を受ける運動		○				
		液体・気体から受ける力		○				
前期期末考査まで	エネルギー	仕事				○	a：エネルギー及び波動に関する事物・現象について関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとしている。 b：エネルギー及び波動に関する事物・現象の中に問題を見いだし、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 c：エネルギー及び波動に関する事物・事情について、観察・実験を行い、記録・整理する等、科学的に探究する技能を身につけている。 d：エネルギー及び波動に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、知識を身につけている。	学習状況 ノート ワークシート 観察・実験 探究活動 授業の基礎確認 定期考査
		運動エネルギーと位置エネルギー				○		
		力学的エネルギーの保存と変化		○				
		熱と温度、熱と物質の状態			○			
		熱と仕事、不可逆変化と熱機関	○					
	波動	波と媒質の運動				○		
		波の伝わり方	○					
		音の性質		○				
		発音体の振動と共振・共鳴			○			
後期中間考査まで	いろいろな運動	運動量と力積				○	a：いろいろな運動及び波動に関する事物・現象について関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとしている。 b：いろいろな運動及び波動に関する事物・現象の中に問題を見いだし、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 c：いろいろな運動及び波動に関する事物・事情について、観察・実験を行い、記録・整理する等、科学的に探究する技能を身につけている。 d：いろいろな運動及び波動に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、知識を身につけている。	学習状況 ノート ワークシート 観察・実験 探究活動 授業の基礎確認 定期考査
		運動量保存則				○		
		反発係数			○			
		等速円運動		○				
		慣性力	○					
		単振動				○		
		万有引力				○		
	波動	正弦波を表す式				○		
		ドップラー効果		○				
後期期末考査まで	熱力学	気体の法則			○		a：熱力学、波動及び電磁気に関する事物・現象について関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとしている。 b：熱力学、波動及び電磁気に関する事物・現象の中に問題を見いだし、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 c：熱力学、波動及び電磁気に関する事物・事情について、観察・実験を行い、記録・整理する等、科学的に探究する技能を身につけている。 d：熱力学、波動及び電磁気に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、知識を身につけている。	学習状況 ノート ワークシート 観察・実験 探究活動 授業の基礎確認 定期考査
		気体分子の運動				○		
		気体の状態変化		○				
	波動	光の性質と進み方	○					
		光の干渉と回折		○				
	電磁気	静電気力			○			
		電場				○		
		電位				○		
		物質と電場		○				

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
c：技能　　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　(学)ＳＳ理数

教科	SS理数	科目	SS化学	単位数	前期１単位	年次	2年次
校内名称	化学			ユニット数	前期1.0	必選別	必
使用教科書	化学基礎改訂版　(啓林館)						
副教材等	資料集：サイエンスビュー四訂版（実教出版）問題集：ニューグローバル化学基礎＋化学（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

①授業時間を大切に
前期は1.0ユニットということで授業数が少なく、1回の授業内容も盛りだくさんになっている。前期で化学基礎の教科書を終え、後期からの授業にバトンをつなげるよう、授業に積極的に参加しよう。
②復習を忘れずに
授業内容をどれだけ理解できたかを確認するするために配布する課題プリント、重要なところを確

2　学習の到達目標

化学反応とエネルギーについて、電池や電気分解などの身の回りで起こる酸化還元反応や、化学反応に伴うエネルギーの出入りを通して学習する。物質の各論では、物質の性質を比較、対照しながら講義する。その中で、生活や工業との接点を自分たちで調べたり、化学と歴史のかかわりなどを学んでいく。　実験では、酸化還元の化学変化や実験の手法やいろいろな物質の性質を学び、観察力と物質間の相関を考慮した既知の物質の反応の予測、未知の物質に対する分析手法などに焦点を当てる。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:技能	d:知識･理解
観点の趣旨	自然の事物・現象や数学的事象に関心をもち、積極的にそれらを探究しようとするとともに、事象を科学的・数学的に考察し表現する態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし探究する過程を通して、事象を科学的、創造的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。また、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的、創造的に考察し的確に表	観察、実験の基本操作及び自然の事物・現象を探究する技能を身に付けている。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	科学や数学における基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	課題の内容 および 提出状況	定期考査 小テスト 実験レポートの内容	行動観察 実験レポートの内容	定期考査 小テスト 再テスト
使用教材等	①授業 教科書と資料集の二点を使用する。どちらも視覚的情報が豊富で、直感的な理解を助けるものとなっている。プリントを中心とした授業展開なので、講義でノートが必要かは初回授業時に担当教官の指示を仰ぐこと。 ②家庭学習 各自で用意したノートに問題集を解き進める。管理上の問題からルーズリーフなどは避ける。 ③参考図書 ・新しい高校化学の教科書/講談社　ブルーバックス　ISBN4-062-57508　1296円 ・化学の新研究/三省堂　ISBN978-4-385-26092-1　2754円			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間考査まで	酸化還元反応	金属のイオン化傾向 金属の反応性	○			○	a 金属のイオン化傾向について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d 金属の反応性の原理を理解し、反応性を比較することができる。	課題 定期考査 小テスト
		電池の原理 いろいろな電池	○			○	a 電池の原理や日常生活での利用について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d 電池の原理やいろいろな電池の仕組みについて理解し、それぞれの知識を身に付けている。	課題 定期考査 小テスト
		電気分解 ファラデーの法則		○	○		a 電気分解工業やその製品に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b 実験データやグラフから電気分解の量的関係を考察し、法則として表現している。 c 電池・電気分解実験の過程や結果を的確に記録・整理している。 d 基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。	実験レポート 課題 定期考査 小テスト
		電気分解の応用	○			○		
前期期末考査まで	無機物質	ハロゲンとその化合物 酸素・硫黄とその化合物 窒素・リンとその化合物 炭素・ケイ素とその化合物	○			○	a 非金属元素について関心を持ち、その単体と化合物の性質や反応について意欲的に取り組もうとしている。 d 非金属元素の単体や化合物について、周期表と関連付けて理解し、知識を身につけている。	課題 定期考査

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
c：技能　　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　(学)ＳＳ理数

教科	SS理数	科目	SS化学	単位数	後期2単位	年次	2年次
校内名称	(理系)化学			ユニット数	後期3.0	必選別	必
使用教科書	化学改訂版(啓林館)						
副教材等	資料集：サイエンスビュー四訂版（実教出版）問題集：ニューグローバル化学基礎＋化学（東京書籍）チェック&演習　化学基礎・化学(数研出版)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

2年後期は、1･2年次で学習した典型金属元素、2年前期までに学習した非金属元素と合わせて、遷移金属元素について学習する。遷移元素は私たちの生活と深くかかわっているものが多いので、単体の性質や製法、用途などを学び、知識を深めていこう。有機化学の分野では炭素を中心とした化合物について学習していく。私たちの生活に欠かせない、食品、衣料品、医薬品はその大部分が有機化合物からできている。これらの性質や構造に加え、日常生活でどのように利用されているかを学んでいこう。

2　学習の到達目標

科学的な事物・現象について観察、実験や課題研究を行い、自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:技能	d:知識･理解
観点の趣旨	自然の事物・現象や数学的事象に関心をもち、積極的にそれらを探究しようとするとともに、事象を科学的・数学的に考察し表現する態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし探究する過程を通して、事象を科学的、創造的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。また、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的、創造的に考察し的確に表	観察、実験の基本操作及び自然の事物・現象を探究する技能を身に付けている。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	科学や数学における基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	課題の内容 および提出状況	定期考査 小テスト 実験レポートの内容	行動観察 実験レポートの内容	定期考査 小テスト 再テスト

使用教材等

①授業
教科書と資料集の二点を使用する。どちらも視覚的情報が豊富で、直感的な理解を助けるものとなっている。プリントを中心とした授業展開なので、講義でノートが必要かは初回授業時に担当教官の指示を仰ぐこと。
②家庭学習
各自で用意したノートに問題集を解き進める。管理上の問題からルーズリーフなどは避ける。
チェック&演習を課題とし、計画を立て、また苦手分野を重点的に解き進める。
③参考図書
・新しい高校化学の教科書/講談社　ブルーバックス　ISBN4-062-57508　1296円
・化学の新研究/三省堂　ISBN978-4-385-26092-1　2754円
※チェック&演習　2年後期に購入820円＋税(予定)
チェック&演習は長期休暇や定期考査の課題となる。単元別なので、校内実力模試(2年1月、3年5月、8月)、外部模試ごとに目標を決めて取り組むこと。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
後期中間考査まで	無機物質	遷移元素の単体とその化合物 無機物質と人間生活 金属の反応性	○			○	a 人間生活に関係する無機物質に関心を持ち、それらを探究しようとしている。 d 周期表３～１１族に属する元素の性質とその単体や化合物について理解	課題 定期考査 小テスト
		金属イオンの分離・確認		○	○		b 観察内容や実験結果から導き出した自らの考えを的確に表現している。 c 金属イオンの分離実験の基本操作を修得し、その過程を的確に記録している	実験レポート 課題 定期考査
	化学反応と熱・光	反応熱と熱化学方程式	○			○	a 化学反応に伴うエネルギーについて関心を持ち、日常生活に見られる反応熱についても意欲的に探究しようとする。 b ヘスの法則について、いろいろな方法で反応熱の出入りを表現している。 d 熱化学方程式や反応熱の量的関係について理解し、知識を身に付けている	課題 定期考査 小テスト
		ヘスの法則		○		○		
	有機化合物	有機化合物の特徴 官能基・異性体・構造式 飽和炭化水素 不飽和炭化水素	○			○	a 有機化合物の特徴について関心を持ち、人間生活とのかかわりについて意欲的に探究しようとする。 d 炭化水素の構造や性質や反応に興味を持ち、考察し、知識を身につけている。	小テスト 課題 定期考査 実験レポート
後期期末考査まで		アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸とエステル 油脂とセッケン		○		○	b 実験の過程や結果から自らの答えを導き出し、的確に表現できる。 d 酸素および窒素を含む官能基の反応性と、代表的な化合物の性質や特徴について、知識を身につけている。	小テスト 課題 実験レポート 定期考査
		芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物 窒素を含む芳香族化合物			○	○	b 観察内容や実験結果から導き出した自らの考えを的確に表現している。 c 芳香族化合物の観察・実験を行い、その基本的操作および記録の仕方を習得している。 d 芳香族化合物の特徴や反応性についての知識を身につけている。	小テスト 課題 定期考査 実験レポート
		芳香族化合物の分離・定性分析		○	○			
	物質の状態	結晶の種類 金属結晶・イオン結晶・そのほかの結晶と非晶質	○			○	a 結晶の構造や種類、気体の体積・温度・圧力の関係について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 b 物質の三態変化のエネルギーや結合の関係、沸騰などの現象について探究する過程を通して導き出した考えを的確に表現している。 d 結晶構造、三態変化、気体の法則についての知識を身につけている。	課題 定期考査 小テスト
		物質の三態 状態変化		○		○		
		気体 気体の状態方程式	○			○		

※　表中の観点について　　a ：関心・意欲・態度　　b ：思考・判断・表現
c ：技能　　d ：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和２年度　(学)ＳＳ理数

教科	(学)SS理数	科目	ＳＳ生物	単位数	後期２	年次	２年次
校内名称	理系 生物			ユニット数	後期３	必選別	選必
使用教科書	改訂　高等学校　生物　（第一学習社）						
副教材等	七訂版スクエア最新図説生物（第一学習社）　四訂版リードα　生物（数研出版）　チェック＆演習生物（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業のスピードは速い。授業中は教科書、図説などを広げて講義を聴き、どんなことも聴きもらさないぞ、という気概をもって臨んでほしい。また、生物学はいろいろな知識を必要とするので、ふだんから新聞や雑誌、図書などを積極的に読み、最新のニュースをどんどん取り入れる努力が必要である。

大学受験との関係

センター試験の理科においては、国公立大学の多くが理系は基礎なし科目「２科目」を必須としている。受験する大学学部の試験科目をよく調べ、生物を必須とする学部や生物では受験できない学部などに注意することが重要である。

授業の受け方

１．講義

ア．授業中は教科書、資料集の該当ページを広げ、本文や図を見ながら話を聞く。

イ．ノートを要領よくとるとともに、教科書、資料集に線を引いたり、印をつけるという心がけが大切。

ウ．わからないことが出てくれば積極的に先生に質問して解決しよう。授業で解答・解説がある問題は事前に解き、わからなかったところなど授業中に理解するようにしよう。

２．演習

ア．家で問題を解いてくる。次の授業で解答・解説がある問題は事前に解き、わからなかったところなど授業中にわかるようにしよう。

イ．自分の解答と比べながら解説を聞く。自分が解けていても誤った考え方をしている場合もあるのでしっかり聞こう。

2　学習の到達目標

細胞、個体、群集など、各レベルでのさまざまな生命現象を知り、その現象を説明する原理を見出そうとするのが生物学を学ぶ態度である。生命の特徴の一つである恒常性の維持のしくみ、生物が集団となった群集に見られる生命現象、細胞内のさまざまな構造、物質の働きを理解し、科学的な自然観を身につける。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:観察･実験の技能	d:知識･理解
観点の趣旨	自然の事物・現象、特に生命現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象、特に生命現象に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象、特に生命現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	実験レポート問題演習の記述内容の分析・行動評価	考査実験レポート問題演習の記述内容の分析・行動評価	考査実験レポート問題演習の記述内容の分析・行動評価	考査、小テスト、実力テスト実験レポート問題演習の記述内容の分析・行動評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
後期中間考査まで	生物の体内環境	体内環境の維持の仕組み	○			○	a 体内の恒常性およびその維持されるしくみにに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d 自律神経系と内分泌系に関する知識を身につけている。	考査 課題ノート
	バイオームと多様性の分布	生物の多様性とバイオーム バイオームの形成過程 バイオームとその分布	○		○	○	a 生物の多様性やバイオームに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b データをもとに考察し、表現することができる。 d バイオームの分布や形成過程に関する知識を身につけている。	考査 課題ノート 実習レポート
	生態系とその保全	生態系 生態系のバランスと保全 生態系の保全	○	○		○	a 生物界と物質界の関係に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b データを下に考察し、表現することができる。 d 生態系の考え方、そのバランスと保全に対する知識を身につけている。	考査 課題ノート 実習レポート
後期期末考査まで	細胞と分子	生体物質と細胞 細胞膜を介した物質の移動 生命現象とタンパク質	○		○	○	a 生命の基本単位である細胞に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 c 顕微鏡観察の技能を身につけている。 d 細胞膜の機能、たんぱく質の働きに関する知識を身につけている。	考査 課題ノート 実験レポート
	代謝	代謝とエネルギー代謝 同化 窒素同化 異化	○	○		○	a 細胞内で行われている代謝に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b 実験データを考察し、表現することができる。 c 光合成、窒素同化、呼吸についての知識を身につけている。	考査 課題ノート 実験レポート
	遺伝情報の発現	遺伝情報とその発現 遺伝子の発現調節 バイオテクノロジー	○	○		○	a 遺伝子であるＤＮＡに関心を持ち意欲的に取り組もうとしている。　b 実験データを考察し、表現することができる。 d 遺伝子の発現のしくみ、調節のしくみ、応用例などに関する知識を身につけている。	考査 課題ノート 実験レポート

※　表中の観点について　　a ：関心・意欲・態度　　b ：思考・判断・表現
c ：技能　　d ：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　(学)SS理数

教科	(学)SS理数	科目	(学)SS地学	単位数	前期2単位	年次	２年次
校内名称	地学			ユニット数	前期3.0	必選別	選必
使用教科書	地学基礎　改訂版　(啓林館)						
副教材等	資料集：ニューステージ 新地学図表(浜島書店)　問題集：センサー地学基礎改訂版(啓林館)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学理科における地学分野は「暗記もの」ととらえて取り組んでいた人が多いと思う。しかし高校では原理・法則に基づいて『理解』することが求められる。
「現象やわかった事実を、科学的根拠に基づいて正しく説明できること」が求められるのである。また、物理や化学の基本的な知識・法則も出てくる。　図やグラフのの読み取り・作成・計算も少なくはない。
しかし、心配には及ばない。なぜなら、それらは「目的」ではなく『理解』するための「手段」にすぎない。
地学の真の目的は、それらの「手段」を用いて自然の姿を理解することにあるのだから。

大学受験との関係
本校での地学はセンター試験において「理科」の１科目として「地学基礎」を受験する生徒（主として文系進学希望者）を対象としている。授業を大切にし、しっかり復習すれば十分対応できる。
なお、大学で専門的に地学を学ぼうとする人は、受験科目としても、また基礎的素養としても、理系に進み、物理と化学をしっかり学んでおく必要がある。

具体的には、以下の点に注意して学習を進めること。
１．授業を集中して受ける。　・・・　教科書の内容は勿論、図表の内容もしっかり理解する。
２．単元毎にしっかり復習する。　・・・　授業ノートをつくり、きちんとまとめる。
問題集を使って、用語の整理や計算問題の復習をする。
３．原理的・理論的に理解する。　・・・　結果(用語)だけを覚えることはやめ、理論と結果の関係を理解するように努めること。
この三点を自覚して、しっかりついて来ること。

2　学習の到達目標

・地球と地球をとりまく宇宙について関心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する。
・目的意識をもって実験実習・観察に取り組み、地学的に考察する能力と態度を身につける。
・それぞれの学習事項を関連させて考え、地学的な事物・現象を総合的に理解する。
・日常生活や社会との関連にも注目し、人類と自然環境の共生について考えを深める。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:技能	d:知識･理解
観点の趣旨	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象について関心をもち、積極的にそれらを探究しようとするとともに、事象を科学的・数学的に考察し表現する態度を身に付けている。	地球や地球をとりまく環境に関する事物・現象の中に問題を見いだし探究する過程を通して、事象を科学的、創造的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 また、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的、創造的に考察し的確に表現している。	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験の基本操作及び地学的事物・現象を探究する技能を身に付けている。 また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境について、科学や数学の基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	課題ノート、実験レポート、長期休業中の課題（「身近な地学」をテーマとしたレポートなど）の提出状況	考査問題における習熟度・理解度	実験レポートおよび考査問題における習熟度・理解度	考査問題における習熟度・理解度

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
前期中間考査まで	地球	地球の概観 地球の内部構造	○			○	a. 地球の形と大きさや内部構造に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d. 地球の形と大きさや地球の内部構造について基本的知識が身についている。	考査問題 課題ノート 実習レポート
		地震波の伝わり方と地球の内部		○	○		c. 地震波の観測データを適切に分析し、整理する技能を身につけている。 b. 得られた地震波のデータを用いて考察を行い、地球内部の層構造や状態を導き出し表現できる。	
	活動する地球	プレートテクトニクスと地球の活動 地震 火山活動と火成岩の形成	○			○	a. プレート境界と大地形、プレートの動き、プレートと地球内部、地震の分布や発生のメカニズム、地震波の観測、マグマと火山活動、火成岩の産状、造岩鉱物、火成岩の分類などに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d. プレートテクトニクス、地震、火山活動と火成岩の形成について基本的知識が身についている。	考査問題 課題ノート 実験レポート
		火成岩の組織の観察		○	○		c. 火成岩の組織を観察し、その結果を的確に記録し整理する。 b. 観察結果をもとに考察を行い、火成岩の分類方法について理解し表現する。	
前期期末考査まで	地球史の読み方	堆積岩とその形成 地層と地質構造 地球の歴史の区分と化石	○			○	a. 地表の変化、堆積岩とその分類、地層、地質構造、変成岩、岩石サイクル、化石、地層の対比、地質年代などに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d. 堆積岩、地層、地質構造、地球史の区分、化石について基本的知識が身についている。	考査問題 課題ノート
	地球と生命の進化	先カンブリア時代 顕生代	○			○	a. 地球の歴史の各時代の環境や生物界の変遷について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d. 地球史と生命の進化について基本的知識が身についている。	考査問題 課題ノート

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：技能　　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　(学)ＳＳ理数

教科	SS理数	科目	SS理科	単位数	1単位/2単位	年次	２年次
校内名称	(文系)化学			ユニット数	1.0/2.0	必選別	選必
使用教科書	化学基礎 改訂版（啓林館）						
副教材等	サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) ニューグローバル化学基礎＋化学(東京書籍)　チェック＆演習化学基礎(数研出版)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

後期は、2年前期までに学習した内容がどれだけ定着しているかを確認しながら、授業や演習課題に取り組んでいこう。基礎計算(物質量、体積、濃度など)を苦手とする人は、目標を決め計算問題に取り組もう。計算を得意とする人は、暗記すべき内容を中心に復習していこう。自分の身の回りにあふれる化学を見直す機会でもあります。3年次では演習を重ね、共通テスト本番で高得点を取れるように進めていきます。

2　学習の到達目標

物質がさまざまな場面で人間生活にかかわり、役立っていることを理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を養うとともに、物質を探究する方法を身につける。また、演習課題に取り組むための力を身につけていく。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:観察･実験の技能	d:知識･理解
観点の趣旨	自然の事物・現象や数学的事象に関心をもち、積極的にそれらを探究しようとするとともに、事象を科学的・数学的に考察し表現する態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし探究する過程を通して、事象を科学的、創造的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。また、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的、創造的に考察し的確に表現している。	観察、実験の基本操作及び自然の事物・現象を探究する技能を身に付けている。また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	科学や数学における基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	課題の内容 および提出状況	定期考査	課題に取り組む態度 実験レポートの内容	定期考査

使用教材等

①授業
教科書と資料集の二点を使用する。どちらも視覚的情報が豊富で、直感的な理解を助けるものとなっている。プリントを中心とした授業展開なので、講義でノートが必要かは初回授業時に担当教官の指示を仰ぐこと。
②家庭学習
各自で用意したノートに問題集を解き進める。管理上の問題からルーズリーフなどは避ける。
チェック&演習を課題とし、計画を立て、また苦手分野を重点的に解き進める。
③参考図書
・新しい高校化学の教科書/講談社　ブルーバックス　ISBN4-062-57508　1296円
・化学の新研究/三省堂　ISBN978-4-385-26092-1　2754円
※チェック&演習　2年後期に購入:
　チェック&演習は週毎や長期休暇の課題となる。単元別に代表的な問題が編集されているので、系統だった復習に適している。復習範囲と提出期限は授業で指示します。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間考査まで	濃度と溶解度	質量パーセント濃度とモル濃度 濃度の換算、溶液の希釈 溶液の調製 飽和溶液 溶解度と温度 固体の溶解度と再結晶	○			○	a:質量パーセント濃度・モル濃度・溶解度を用いて、溶液を定量的に取り扱うこと関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d:基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	定期考査 課題
	酸と塩基	酸・塩基の定義、価数 酸・塩基の強さ 水溶液の酸性・塩基性とｐＨ 指示薬とｐＨ測定 中和滴定と滴定曲線 塩の性質と反応	○	○	○	○	a:酸と塩基、pH、中和、塩、滴定実験に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:記録を元に考察し表現している。 c:中和滴定実験の過程や結果を的確に記録・整理している。 d:基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	定期考査 課題 実験
後期期末考査まで	酸化と還元	酸化・還元の定義と酸化数 酸化剤・還元剤とその強さ 酸化還元反応式のつくり方 酸化剤と還元剤の量的関係 酸化還元滴定	○	○	○	○	a:酸化・還元に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:記録を元に考察し表現している。 c:酸化還元滴定実験の過程や結果を的確に記録・整理している。 d:基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	定期考査 課題 実験
	電池	金属のイオン化傾向 金属の反応性 電池の原理 ボルタ電池、ダニエル電池 鉛蓄電池、燃料電池	○			○	a:金属のイオン化傾向、電池の原理・歴史、実用電池に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d:基本的な概念を理解し、知識を身につけている。	定期考査 課題

※　表中の観点について　　ａ：関心・意欲・態度　　ｂ：思考・判断・表現
ｃ：技能　　ｄ：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和２年度　(学)ＳＳ理数

教科	(学)SS理数	科目	(学) SS理科（生物）	単位数	1単位/2単位	年次	2年次
校内名称	文系　生物			ユニット数	1/2	必選別	選必
使用教科書	高等学校　生物基礎　第一学習社						
副教材等	七訂版スクエア最新図説生物(第一学習社)　改訂ニューグローバル生物基礎（東京書籍）　チェック＆演習生物基礎（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

どの教科にも言えることではあるが、授業のスピードは速い。授業中は教科書、図説などを広げて講義を聴き、どんなことも聴きもらさないぞ、という気概をもって臨んでほしい。また、生物学はいろいろな知識を必要とするので、ふだんから新聞や雑誌、図書などを積極的に読み、最新のニュースをどんどん取り入れる努力が必要である。

大学受験との関係

センター試験の理科においては、国公立大学の多くが文系は基礎を付した科目２科目を必須としている。受験する大学学部の試験科目をよく調べ、生物を必須とする学部や生物では受験できない学部などに注意することが重要である。

授業の受け方

１．講義

ア．授業中は集中する。教科書、図説の該当ページを広げ、本文や図を見ながら授業を聴く。すでに習ったことで忘れていた事項が出てくればすぐに教科書や図説を見直して確認する、という心がけが大切である。

イ．ノートは要領よくとる。単に黒板に書かれたことを写すだけではいけない。必要だと思ったことは自分なりに判断してノートをつくろう。

ウ．疑問点は質問する。わからないことが出てくれば、そのままにしておかずに積極的に先生に質問して解決しよう。

２．演習

ア．家で問題を解いてくる。次の授業で解答・解説がある問題は事前に解き、わからなかったところなど授業中にわかるようにしよう。

イ．自分の解答と比べながら解説を聞く。自分が解けていても誤った考え方をしている場合もあるのでしっかり聞こう。

2　学習の到達目標

１．さまざまな生命現象を知り、その現象を説明する原理を見出そうとする態度の涵養。
２．その態度をもって基本的な概念や原理を理解し、科学的な自然観を身につける。
３．大学入試センター試験に充分対応できる学力を身につける。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:観察･実験の技能	d:知識･理解
観点の趣旨	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	実験レポートや問題演習の提出及び記述内容の分析・行動観察	考査 実験レポートや問題演習の記述内容の分析	考査 記述内容の分析 行動観察	考査 実力テスト 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間考査まで	生物の体内環境	自律神経の構造と働き ホルモンによる調節 血糖量の調節 体温の調節	○			○	a 眠っていても呼吸が止まることはなく、睡眠によって疲労が回復する。このように無意識に体内環境が調節されるしくみに関心を持つ。 d 特に血糖量と体温の調節のしくみを説明できるように。	考査 実習プリント
		バイオーム 植生の成り立ち		○	○		b バイオームは生活形によって特徴づけられることを科学的に考察し，説明できる。c 身近な木本を植物図鑑を用いて同定できるようになる。	
後期期末考査まで	バイオーム	さまざまな植生 植生の遷移 気候とバイオーム 世界のバイオーム 日本のバイオーム		○		○	b 生産構造図を読み取り，理解する。 d 陽生植物や陰生植物，陽樹と陰樹，陽葉と陰葉の特徴を理解している。	考査 実習プリント
		生態系の成り立ち 生態系内の物質循環とエネルギーの流れ	○			○	a生態系の成り立ちについて関心をもち，意欲的に理解しようとする。 d 生態系を成り立たせている諸条件について学ぶ。物質は循環するがエネルギーは循環しないことを理解し計算問題を解くことができる。	

※　表中の観点について　　a ：関心・意欲・態度　　b ：思考・判断・表現
c ：技能　　d ：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。

令和2年度　(学)ＳＳ理数

教科	ＳＳ理数	科目	理想（のぞみ）	単位数	前期１	年次	２年次
校内名称	理想（のぞみ）			ユニット数	前期1.5	必選別	必修
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

これまでに学んできた数学の知識・興味を生かし，与えられたテーマあるいは自分で選んだテーマについて研究し，まとめて発表をするという位置づけの科目です。数学的な考え方・手法・説明力をしっかりと身につけ，実行できる研究能力を養うとともに，自主性と独創性をもって数学と向き合うことができる人材になれるよう期待しています。

そのためにも，普段から身の回りの数学にアンテナを張り，日常生活と数学がどう関連しているかを考えることが重要です。

2　学習の到達目標

数学的内容を補填するとともに，数学に関する課題に取り組み，７月の校内発表に向けて，数学のプレゼンテーション能力の一層の向上を目指す。

また，統計的な推測に関して，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，後期から実施する「サイエンス探究」において，さまざまな分析に生かせるようになることを目指す。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:課題設定力	b:研究力	c:表現力	d:応答力
観点の趣旨	研究の意義を明確に説明できている。 研究対象を正しく理解し，深い問いを設定している。 高校生として研究のオリジナリティが高い。	先行研究の知見を整理した上で，本研究を位置づけている。 正確な資料を収集している。また典拠が示されている。 収集した資料やデータを解釈・分析して，結論や結果が論理的に主張されている。	発表は，周到な準備に裏付けされたものであり，優れた発表技法を持っている。 聴衆に配慮した言動で発表ができており，集中力を途切れさせない工夫がみられる。	質疑の趣旨を十分に理解して，シンプルかつストレートに応答できている。
評価方法	課題設定シート 課題報告書	課題報告書 発表資料	発表 発表資料 考査	発表 質疑応答

4　学習の活動

期間	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間考査まで	整数の性質	整数の性質			○		整数について，基本的な概念，法則を体系的に理解し，知識を身につけている。	考査
	課題設定・資料収集・研究	課題設定	○				研究対象を正しく理解し，深い問いを設定している。	課題設定シート
		資料収集・研究		○			周到な調査・研究を行っている，もしくは正確な資料が集められている。また典拠が明確に示されている。	課題報告書
		中間発表	○		○	○	研究の意義を極めて明確に理解し，またその説明が出来る。	発表 発表資料
		発表の技法			○		聴衆に十分配慮した発表ができ，集中力を途切れさせない優れた工夫を学んでいる。	発表
前期期末考査まで	発表・報告書作成	発表原稿の作成	○	○	○		研究対象を正しく理解し，また正確な典拠を伴って発表原稿の作成を行っている。研究内容や論理展開も整っており，意義のある研究になっている。	発表資料
		発表			○	○	聴衆に十分配慮した発表ができ，集中力を途切れさせない優れた工夫がある。また質問の趣旨を十分に理解し，シンプルかつストレートに応答している。	発表 質疑応答
		報告書作成		○	○		収集した資料やデータを正確に解釈・分析し，結論や結果が論理的にまとめられている。	課題報告書
	統計的な推測	確率分布と統計的な推測			○		収集したデータを統計的に分析する方法について理解している。	考査

※　表中の観点について　　a：課題設定力　b：研究力　c：表現力　d：応答力

学校番号	3017

令和２年度　(学)SS理数

教科	(学)SS理数	科目	(学)SS理科(地学)	単位数	後期１／２単位	年次	２年次
校内名称	地学			ユニット数	後期1.0／2.0	必選別	選必
使用教科書	地学基礎　改訂版　(啓林館)						
副教材等	資料集：ニューステージ 新地学図表(浜島書店)　問題集：センサー地学基礎改訂版(啓林館)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

引き続き、原理・法則に基づいて理解するように努めること。さまざまな用語は、覚えるべき言葉というより「現象を『説明するための道具』」である。また、地学には物理や化学の基本的知識や公式・法則も出てくる。それらもすべて多様な地学現象を『理解するための道具』にすぎない。積極的に理解するように努めること。

具体的には、以下のことを重視して学習を進めること。

１．苦手分野を作らない！　・・・ 春休みまでに既習範囲の総復習。センサーふたたび！

２．計算問題を嫌がらない！　・・・ 中学校までの数学で学習した公式をあなどるなかれ！

３．教科書をしっかり読む！　・・・ 教科書はすべての基本。困ったら教科書にかえれ！

皆さんの努力に期待します。

担当者からのメッセージ

近年問題となっている地球温暖化は、大気中のCO_2の増加による温室効果の増大が原因であるとされている。しかし、大気中にCO_2などの温室効果ガスがなければ、地表の気温は著しく低下し、生物の住めない環境になってしまう。生物が生存し続けることができる気温やCO_2濃度などの環境は、どのようにして生み出されてきたのだろうか？ 地学は自然科学でありながら歴史科学の側面も持っている。現在の事象が、過去の出来事とどうつながるのか、そしてそれが未来のどのようなイベントにつながるのか、それらの関連性にも注目してほしい。

大学入試の為に、単に知識を丸覚えするだけではなく、広い視野に立って学んでほしいと考えている。

2　学習の到達目標

・地球と地球をとりまく宇宙について関心を持ち、基本的な概念や原理・法則を理解する。
・目的意識をもって実験実習・観察に取り組み、地学的に考察する能力と態度を身につける。
・それぞれの学習事項を関連させて考え、地学的な事物・現象を総合的に理解する。
・日常生活や社会との関連にも注目し、人類と自然環境の共生について考えを深める。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:思考･判断･表現	c:技能	d:知識･理解
観点の趣旨	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象について関心をもち、積極的にそれらを探究しようとするとともに、事象を科学的・数学的に考察し表現する態度を身に付けている。	地球や地球をとりまく環境に関する事物・現象の中に問題を見いだし探究する過程を通して、事象を科学的、創造的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 また、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的、創造的に考察し的確に表現している。	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験の基本操作及び地学的事物・現象を探究する技能を身に付けている。 また、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境について、科学や数学の基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	課題ノート、実験レポート、長期休業中の課題の提出状況	考査問題における習熟度・理解度	実験レポートおよび考査問題における習熟度・理解度	考査問題における習熟度・理解度

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
評価点の割合は、考査点８０％程度、平常点２０％程度です。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間考査まで	大気と海洋	大気圏 地球のエネルギー収支 大気の大循環	○			○	a. 大気圏の層構造、太陽放射エネルギー、地球の熱収支、大気の大循環について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d. 大気圏の層構造、地球の熱収支、大気の大循環についての基本的な概念を理解し、知識が身についている。	考査問題 課題ノート
後期期末考査まで	大気と海洋	水と気象 海洋の循環	○			○	a. 表層の水の分布、雲の発生、熱輸送の担い手としての水の役割について関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 d. 大気中の水、海洋の循環について基本的知識が身についている。	考査問題 課題ノート
		日本の天気	○	○	○	○	a. 日本で見られる気象現象に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b. 季節の気象変化とその原因について科学的に考察し的確な考えを導き出せる。 c. 天気図や衛星画像などから気象データを正しく読み取り整理できる。 d. 季節の天気の特徴について基本的な知識が身についている。	

※　表中の観点について　　a ：関心・意欲・態度　　b ：思考・判断・表現
　　c ：技能　　d ：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和２年度　(学)ＳＳ理数

教科	ＳＳ理数	科目	(学) サイエンス探究	単位数	１単位	年次	２年後期 ３年前期
校内名称	ソーシャルサイエンス探究（文系Ｓ探）			ユニット数	１．５	必選別	必修
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

【人が生み出したこと、全てを探究してみよう】

「学問」が確立したギリシア世界では、「この世の物質は何からできているか」を見極めることから探究が始まりましたが、そのような「ピュシス(自然）」に対し、人間の手で作られた道徳や法律などの「ノモス（人為）」も理論的に探究する対象となり、それらの探究を通して、人知を超えた世界や宇宙の秩序に想いを馳せるテオリア（観想）こそ、最高の人間生活だとされました。

現代の社会でも、科学（サイエンス）は自然科学のみではありません。ギリシア人も気付いていたように、社会科学・人文科学も理論的な科学です。教科学習、毎日の生活、文化やスポーツ活動、あるいは世界に関する報道などから、疑問を見つけ出してください。ものごとの成り立ちや、社会・自然への影響を考え、他の文化との比較をし、またその上での新たな創作ができるかもしれません。

独自の方法・理論で立ち向かい、地理的・物理的に捉えた言葉としての「世界・宇宙」を超えた、文化的・社会的な「世界・宇宙」を切り開いてください。

２　学習の到達目標

２年後期から３年前期の１年間をかけて各自の設定した課題に基づいて研究を行う。

文理学科の取り組みの中では、これまでに得た知識・技能を十二分に活かし、発表のための総まとめという位置づけになっている。調査・分析・対話・説明の手法を身につけつつ、特に論理的解決能力の育成に重点を置いて、体系的な発表ができる研究能力の養成をめざす。１年間の受講を通して、自主性および独創性を高め、「探究するこころ」を持ちあわせた生徒を育成する。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人文・社会現象に関心や探究心を持ち、答えの用意されていない問いに挑む意欲を有している。	自ら研究テーマを定め、問いとなるリサーチクエスチョンを立てた上で、調査・研究計画を策定して、探究活動を論理的に進めている。	情報収集手法を身につけて、必要な情報・データを的確に獲得することができる。（書籍・Web・フィールドワーク等を通じて）	文献やＷｅｂ等を通じた情報収集により、研究テーマに関連する諸情報を体系的に把握し、自らの研究課題の位置づけが理解できている。
評価方法	①授業への参加度（「研究計画」「読書課題」の内容） ②フィールドワークや校外諸機関へのアプローチ内容	①中間・最終発表会時の「予稿集」「ポスター」「発表時の説明・質疑応答」 ②「研究報告書」	①中間・最終発表会時「予稿集」「ポスター」「発表時の説明・質疑応答」 ②「研究報告書」	①中間・最終発表会時の「予稿集」「ポスター」「発表時の説明・質疑応答」 ②「研究報告書」

・上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間考査まで	課題設定	研究テーマの策定 研究テーマへの知識の深化 研究方針の確立 収集した情報からの論点整理	○	○	○	○	a：　策定した研究テーマに関して意欲的に情報収集とその整理を行っている。 b・d：研究対象に対する概念的な整理を行い、研究課題に対する論点を整理する。 c：妥当な資料やデータを収集できる適切な研究が行われている。	日々の研究活動の記録
後期期末考査まで	中間発表会	結果の考察 プレゼンテーション 質疑応答	○	○	○	○	b・c： ①収集した資料やデータを十分に解釈・分析し、適切に活用できている。 ②聴衆に十分配慮した発表について理解し、集中力を途切れさせない優れた工夫がある。 a・b・d： 質問の趣旨を十分に理解し、シンプルかつストレートに応答している。	中間発表会 「予稿集」 「プレゼンテーション」 「質疑応答」
	今後の研究内容の展望	①指導助言者・同級生からもらったアドバイスの整理 ②今後の方針策定	○	○	○	○	a・b・d： ①収集した資料やデータを十分に解釈・分析し、適切に活用できている。 ②研究対象に対する概念的な整理を行い、論点を整理し、文章で的確に表現することができる。	中間発表会のふり返り

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3017

令和２年度　(学)ＳＳ理数

教科	SS理数	科目	(学)サイエンス探究	単位数	１単位	年次	2年次
校内名称	サイエンス探究（理系Ｓ探）			ユニット数	後期1.5u	必選別	必修
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

サイエンス探究（理系Ｓ探）の対象は、物質、生命、宇宙などの自然界、自然界にはないものを作り出す「ものづくり」、そして、数、式、図形をはじめとする数学の世界など、多岐にわたっています。解き明かしたいこと、実現したいこと、挑戦したいことに、みなさん自身の手で、研究あるいは開発してみる授業が、サイエンス探究です。この授業は研究テーマを見つけることが研究を進めるうえで重要な要素となります。研究テーマは、みなさんの興味・関心次第で、自由に設定することができます。ただし、すぐに結果がわかることや、設備上不可能なこと、安全上の問題がある場合については、研究テーマにはなり得ません。まずは、身の周りの世界や未知なる世界を見つめて、１年間かけて取り組んでみたいことを見つけてみましょう。研究を進めていくうえで、苦労することも多々あると思いますが、研究を通して得られる喜びも大きいと思いますので、ぜひ意欲的に取り組んでみてください。

2　学習の到達目標

「サイエンス探究」は、「まこと」で培った情報収集力、情報分析力、文章表現力、プレゼンテーション力、「のぞみ」で培った論理的に分析・判断・検証する力、論理的表現力を十二分に活かして、研究活動を進めていきます。研究活動を通して、知的好奇心、科学的に探究する力、論理的に問題を解決する力など、科学する「こころ」と「ちから」を高めていくことを目標とします。大阪府内、全国、さらには海外研修における研究発表などの機会を活かし、研究成果を世界に向けて積極的に情報発信することにも挑戦していきます。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	関心･意欲･態度	思考･判断･表現	技能	知識･理解
観点の趣旨	物理、化学、生物、地学及び数学の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	物理、化学、生物、地学及び数学の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理、化学、生物、地学及び数学の事物・現象を科学的に探究する技能、情報を収集し分析する技能、研究結果をまとめ、発表する技能を身につけている。	物理、化学、生物、地学及び数学の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているとともに、研究活動において、知識・理解を正しく活用できている。
評価方法	研究テーマの設定 研究計画 観察・実験・論証の進め方と工夫 発表用ポスター 中間発表会の発表と質疑応答 課題の整理・明確化	研究テーマの設定 研究計画 観察・実験・論証の進め方と工夫 発表用ポスター 中間発表会の発表と質疑応答 課題の整理・明確化	研究テーマの設定 研究計画 観察・実験・論証の進め方と工夫 発表用ポスター 中間発表会の発表と質疑応答 課題の整理・明確化	研究テーマの設定 研究計画 観察・実験・論証の進め方と工夫 発表用ポスター 中間発表会の発表と質疑応答 課題の整理・明確化

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

4　学習の活動

期間	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間考査まで	課題設定	研究テーマの設定	○	○	○	○	a, b, c, d： １年間の研究として適切で魅力的であり、対象を正しく理解し、より深い問いを伴う仮設が設定されている。	調査活動 研究ノート
		研究のための調査	○	○	○	○	研究を始めるにあたって、実験方法や先行研究の調査が行われている。	調査活動 研究ノート
		研究方法の確立	○	○	○	○	仮説を検証するための資料やデータを収集できる適切な研究方法が確立できている。	研究活動 研究ノート
後期期末考査まで	中間発表	中間結果のまとめ	○	○	○	○	a, b, c, d： 研究目標、研究方法、今後の課題について、論理的にまとめ、的確に文章や図表およびグラフを用いて伝えたいことを明確に表現している。	研究ノート ポスター
		中間発表会の実施	○	○	○	○	聞く者の理解に配慮された熱意のある発表となっており、質問の趣旨を理解して応答している。	ポスター プレゼン 質疑応答
		今後の課題の整理・明確化	○	○	○	○	中間発表会での意見交換や指導助言を受け、論点を整理し、今後の課題が明確になっている。	研究活動 研究ノート

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　b：思考・判断・表現　c：技能　d：知識・理解

学校番号	3017

令和２年度　(学)ＳＳ理数

教科	SS理数	科目	(学)ライフサイエンス	単位数	１単位	年次	2年次
校内名称	ライフサイエンス			ユニット数	後期1.5u	必選別	必修
使用教科書	なし						
副教材等	課題研究メソッド・ノート（啓林館）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

『ライフサイエンス』では、文系の研究（人文社会系）、理系の研究（理数系）、文系と理系の境界領域や、生活科学、健康科学、文化、芸術などを含めて、幅広い範囲から課題を選択し、課題研究を進めていきます。課題についてのリサーチクエスチョンの設定から発表・まとめに至るまでの活動全体をバランスよく配置し、課題研究メソッドで示されている「研究の方法」を学び、身につけることを目標としています。具体的には、課題の選択、課題についてのリサーチクエスチョンの設定、文献調査・実地調査・実験実習等の研究の実施、ロジックツリーの作成等による研究結果の分析・考察と論理構成の整理、研究発表、研究報告書の作成と１つ１つのプロセスを丁寧に進めていきます。研究を楽しみつつ、「研究の方法」をしっかり身につけて下さい。

2　学習の到達目標

『ライフサイエンス』の目的は、具体的な課題についての研究を通して、リサーチクエスチョンの設定から研究報告書の作成に至るまでの「研究の方法」を身につけることです。『ライフサイエンス』の活動のベースとなる力は、１年時の『信念（まこと）』で身につけた情報収集力、読解力、表現力、プレゼンテーション力、そして、２年前期の『理想（のぞみ）』で身につけた論理的思考力、問題解決能力です。『信念（まこと）』『理想（のぞみ）』で身につけた力を活かし、『ライフサイエンス』でさらに深化させ、文理学科の３年間の探究活動のまとめとします。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	関心･意欲･態度	思考･判断･表現	技能	知識･理解
観点の趣旨	人文社会や自然、文理の境界領域や生活、健康、文化、芸術等の研究対象に興味を持ち、答の用意されていない問いに挑む意欲を有している。	課題に対して、リサーチクエスチョンと研究計画を立てて、研究を進めている。また、得られた情報、文献、資料、調査データ、実験データ等を考察し、論理的な筋道を立て結論を導き、それらを発表すると共に、研究報告書にまとめることができている。	研究のために必要な情報、文献、資料、調査データ、実験データ等を収集し、分析し、研究結果を適切な方法で表現し、それを発表すると共に、研究報告書にまとめる等、研究を進めるための技能を習得している。	研究課題に関する知識を体系的に把握し、文献調査、資料調査、実験実習等で得られたデータ等を知識と関連づけ、自らの研究課題の位置づけを理解できている。
評価方法	①リサーチクエスチョンと研究計画 ②研究結果の分析とロジックツリー ③研究発表におけるポスター等の成果物 ④研究発表におけるプレゼンテーション ⑤研究報告書	①リサーチクエスチョンと研究計画 ②研究結果の分析とロジックツリー ③研究発表におけるポスター等の成果物 ④研究発表におけるプレゼンテーション ⑤研究報告書	①リサーチクエスチョンと研究計画 ②研究結果の分析とロジックツリー ③研究発表におけるポスター等の成果物 ④研究発表におけるプレゼンテーション ⑤研究報告書	①リサーチクエスチョンと研究計画 ②研究結果の分析とロジックツリー ③研究発表におけるポスター等の成果物 ④研究発表におけるプレゼンテーション ⑤研究報告書

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

4　学習の活動

期間	単元	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
後期中間考査まで	課題設定	課題の設定	○	○		○	a　興味深い問いが設定できている b　論理的に問いが設定できている d　研究背景が押さえられている	リサーチクエスチョン 研究計画
		資料収集・調査・実験など	○		○	○	a　意欲的に研究が実施できている c　必要な技法を習得している d　知識理解を活用している	研究活動
		結果の分析・考察	○	○	○	○	a　意欲的に分析・考察している b　論理的な流れとなっている c　データ等を適切に処理している d　知識理解を活かした考察である	研究結果の分析 ロジックツリー
後期期末考査まで	中間発表	研究のまとめ	○	○		○	a　意欲的に研究をまとめている b　論理的なまとめである d　知識理解を活用してまとめている	まとめの活動
		研究発表の準備と実施	○	○	○	○	a　意欲的に発表している b　発表に相応しい表現をしている c　発表の技法を身につけている d　発表に知識理解が活かしている	研究発表におけるポスター等の成果物
		研究報告書の作成	○	○	○	○	a　意欲的な報告書となっている b　論理的な構成となっている c　報告書に技法が活かされている d　知識理解を活かした報告書である	研究報告書

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　b：思考・判断・表現　c：技能　d：知識・理解